

コン ク リ ー ト 工 事	①	コンクリートの種類等	類別 ※Ⅰ類（JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート） ・Ⅱ類（JIS A 5308 に適合したコンクリート） 普通コンクリート 設計基準強度（N/mm ² ） ・B4 ・B3 気乾単位容積質量（t/m ³ ） 2.3程度 2.3程度 スラブ 15又は18 18 適用箇所 外構 柱・梁・床・壁・基礎 構造体強度補正值(S) ※標準仕様書 表6.3.2による 補正值S＝3（月 日～月 日、月 日～月 日） S＝6（月 日～月 日、月 日～月 日） 種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 適用箇所（※下記以外全て） 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g以下、かつ28日目で 402 J/g以下のものとする。 ・高炉セメントB種 適用箇所（・IFLより下部（立上り部含む）） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（・）	(6.2.1) (6.2.1～6.2.4) (6.3.1)	7 鉄 骨 工 事	①	鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」により評価を受け、国土交通大臣から認定を受けた工場。又は同等以上の能力のある工場 評価の区分 ※（ M ） グレード ・指定しない ・監督員の承諾する工場（標準仕様書7.1.1以外の適用範囲に限る） 配置する 種類等 種類の記号 適用箇所（主要な部分） 規格 SS400 耐風梁、設備目隠し壁下地 JIS規格による JIS規格による JIS規格による JIS規格による 溶接亜鉛めっき工法の適用箇所 外部 ボルトの種類 トルシア形高力ボルト 溶融亜鉛めっき高力ボルト ボルトのねじの呼び 図示による（ ） ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔） 摩擦面の処理方法等 溶融亜鉛めっき以外 ※標準仕様書7.4.2(1)による 溶融亜鉛めっき面 ・プラスト処理（表面粗度50 μm Rz以上） ・プラスト処理以外の特別な処理方法 ・図示による（ ） すべり試験 ・行う（※すべり係数試験・すべり耐力試験） 試験の方法等 ・図示による（ ） ボルト及びナットの材料 ・標準仕様書 表7.2.3（JIS附属書品）又は次による ボルトの規格は JIS B 1180 とする。 （ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181 とする。ナットの種類は、六角ナットとし、材料は鋼とする。） ボルトのねじの呼び ・図示による（ ） 座金 ※ JIS B 1256 による 戻り止め ※二重ナット ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔） 構造用アンカーボルト（JIS B 1220） 種類 ABR400 ・ABR490 ・建方用アンカーボルト（JIS G 3101） 種類 SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔） 溶接材料 標準仕様書7.2.5(1)、(2)による ・標準仕様書7.2.5(1)、(2)以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・図示による（ ） 種類 建築用ターンバックル ※羽子板ボルト 建築用ターンバックル胴 ※割枠式 ねじの呼び ・図示による（ ） 材質、形状及び寸法 適用箇所 材質・形状・寸法 備 考 ・デッキプレート 単独の構法 ・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法 開口部補強要領（補強筋の定着長さ等を含む） ・図示による（ ）	(7.1.3) (7.1.3、4) (7.2.1) (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2)(7.12.5) (7.2.3)(7.5.2) (7.2.4)(7.10.3) (7.2.5) (7.2.6)	②	施工管理技術者		③	鋼材		④	高力ボルト		⑤	普通ボルト		⑥	アンカーボルト		⑦	溶接材料		8	ターンバックル		9	床構造用のデッキプレート													
	②	セメント	種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は フライアッシュセメントA種 適用箇所（※下記以外全て） 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352 J/g以下、かつ28日目で 402 J/g以下のものとする。 ・高炉セメントB種 適用箇所（・IFLより下部（立上り部含む）） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（・）	(6.3.1)		③	骨材	アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B（コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m ³ 以下）	(6.3.1)	④	混和材料	・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による	(6.3.1)	⑤	打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地	打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 図示による（ ） 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 図示による（意匠図） 目地の寸法 ・標準仕様書 9.7.3(1)(7)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する 図示による（意匠図） ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 図示による（ ） 温潤養生 温潤養生の期間 セメントの種類が普通エコセメントの場合（ ）日	(6.6.4) (6.8.1)(9.7.3) (6.8.1)(11.1.3) (6.7.2)	⑦	構造体コンクリートの仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ 種類 ・A種 ※図示による（ ） ・B種 ※図示による（ ） ・C種 ※図示による（ ） コンクリートの仕上りの平たんさ 種類 ・a種 ※図示による（ ） ・b種 ※図示による（ ） ・c種 ※図示による（ ）	(6.2.5)(6.8.2)	⑧	打増し厚さ（打放し仕上げ部）	打増し厚さ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） 20mm 打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） 10mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 20mm 打増し範囲 ・図示による（ ）	(6.8.1)	⑨	型枠	せき板の材料及び厚さ 合板（※12mm） コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ・図示による（ ） ・MCR工法用シートの使用 適用箇所 ・図示による（ ） 打増し厚さ 20mm 打増し範囲 ・図示による（ ） スリーブの材質・規格等 ・図示による（ ） 存置期間及び取外し ※標準仕様書6.8.4による ・普通エコセメントの場合（※図示による（ ））	(6.8.2) (6.8.4)	10	軽量コンクリート	適用箇所 ・図示による（ ） 種類 ・1種 ・2種 気乾単位容積質量 ・標準仕様書 表6.10.1による スラブ ※21cm	(6.10.1、2)	11	寒中コンクリート	適用期間（月 日～月 日） 構造体強度補正值(S)を積算温度を基に定める場合 ・図示による（ ）、S＝（ ）	(6.11.1、2)	⑫	暑中コンクリート	適用期間（月 日～月 日） 構造体強度補正值(S) ※6N/mm ² ・図示による（ ）、S＝（ ）	(6.12.2)	13	マスコンクリート	適用箇所 ・図示による（ ） セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料の適用 ・あり（・標準仕様書6.13.2(2)(7)による） ・標準仕様書6.13.2(2)(4)による スラブ ※15cm 構造体強度補正值(S) ※標準仕様書表6.13.1による	(6.13.1、2)
			一級建築士事務所 KATO KATO ARCHITECTS 株式会社 カトウ建築事務所			埼玉県知事登録（第58878号） APPR CHKD DRAWN	埼玉事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9787 東京事務所 東京都中央区浜二丁目2番5号 TEL 03-6262-8278 FAX 03-3206-0288	工事名 （仮称）蔵市立西公民館等複合施設建設工事 図 名 特記仕様書（2） No. S-02																																					

構造関係共通図（配筋標準図）

総則

1. 適用範囲

(1) 本構造関係共通図は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立の一般的な標準図とする。

(2) 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。

2. 用語の定義

(1) 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。

(2) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。

(3) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

3. 優先順位

(1) 設計図書の図面のうち配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。

1. 特記仕様書（構造関係）

2. 図面

2-1 設計図

2-2 構造関係共通図（配筋標準図）

3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

4. 記号

図面で使用する記号等は、表A～表Dを標準とする。

表A 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊗	⊙

表B 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S [≡]	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がり範囲	（土）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○	耐力壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、 かつ耐力壁の種別	W○○ KW○○	一般壁の種別 片持ちスラブ形階段を受け、 かつ一般壁の種別
ERW○○	土圧を受け、かつ耐力壁の種別		

表C 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築	建	⊙	⊗	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

表D スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	銅管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管	つば付き銅管（黒管）
記号（建築用）	SGP（白管）		GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295、SD345	SD390	
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90° （幅止め筋）				

1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

(2) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

(3) 杭基礎のベース筋

(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 継手及び定着

(1) 鉄筋の重ね継手

(ア) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

(イ) 柱及び梁主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	40d	30d

(注) 1. L1、L1h：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。

2. フックありの場合のL1hは、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。

3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

(ウ) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量コンクリートの場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。

(エ) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。

ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

重ね継手	場合	L1h	
		a=0.5L1h	a≥0.5L1h
フックあり	場合		
	場合		
溶接	ガス圧接継手・溶接継手		
	カッパラー		

(2) 鉄筋の定着

(ア) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ					
		L1	L2	小梁	スラブ	小梁	スラブ		
SD295	18	45d	40d	10d	35d	30d	10d		
	21	40d	35d					30d	
	24, 27	35d	30d					25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d					25d	20d
SD345	18	50d	40d	20d	35d	30d	10d		
	21	45d	35d					30d	25d
	24, 27	40d	35d					30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d					25d	20d
SD390	21	50d	40d	(25d以上)	35d	30d	10d		
	24, 27	45d	40d					35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d					30d	25d

(注) 1. L1、L1h：2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

2. L2、L2h：割設破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

3. La：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

なお、（ ）は片持ち小梁及び片持スラブの場合を示す。

4. Lah：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。

5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

4 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。

ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種別			最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	柱、梁、耐力壁	屋内 仕上げあり	30
		屋内 仕上げなし	30
		屋外 仕上げあり	30
		屋外 仕上げなし	40
擁壁、耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁	*40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	*60	
煙突等高熱を受ける部分			60

(注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。

また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。

2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。

4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

(2) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(3) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(4) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のものを以上とする。

(ア) 組骨材の最大寸法の1.25倍

(イ) 25mm

(ウ) 隣り合う鉄筋の径（呼び名の数値）の平均の1.5倍

図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

(5) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(4)による。

(6) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

(1) 一般事項

(ア) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

(イ) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(2)(a)による。

図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その1）

(3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。

ただし、耐圧スラブが付く場合は、(4)による。

図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2）

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。

2. 印は、継手及び余長位置を示す。

3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

一級建築士事務所

KATO

ARCHITECTS

埼玉県知事登録 (第)8878号

株式会社 カトウ建築事務所

一級建築士 No.164725 北田 英成

APPR

CHKD

DRWN

埼玉事務所

さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル

TEL 048-762-9767

FAX 048-762-9787

東京事務所

東京都中央区浜二丁目2番5号

TEL 03-6262-8278

FAX 03-5206-0288

工事名

(仮称) 蔵市立西公民館等複合施設建設工事

図名

構造関係共通図（配筋標準図①）

NO SCALE (A1)

NO SCALE (A3)

DATE

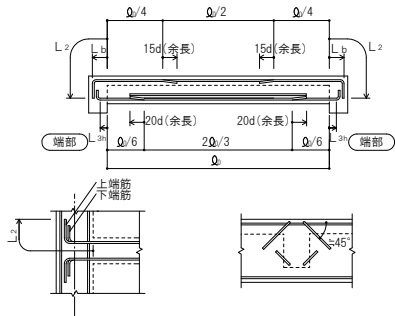
2025. 9

No.

S-03

図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その2） (4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。（耐圧スラブがつく場合を含む） 図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）	(2) 柱打増し部 (ア) 打増し部分に、壁、梁及びスラブ等がとりつく場合は、壁、梁及びスラブ筋等の定着長さには、打増し部分を含まない。 (イ) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。 図6.2 柱打増し部	(エ) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は3(2)(イ)による。 上端筋：曲げ降ろす 下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。 下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。 (オ) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は設計図による。 (カ) 段違い梁は、図7.2による。 図7.2 段違い梁 (3) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。 図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長 (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上） 図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長 (4) ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。 図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長 (注) 1. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。 4. 破線は、柱内定着を示す。 5. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上） 図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長	(イ) フックの位置 (a) ①の場合は交互とする。 (b) ②の場合 L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。 (c) ③の場合は床版の付く側を 90°折曲げとする。 図7.5.1 あばら筋組立の形 (3) 副あばら筋組立の形及びフックの位置 (ア) 形は、図7.5.2 ⑤または ⑥とする。 ただし、L形梁またはT形梁の場合は ⑦とすることができる。 図7.5.2 副あばら筋組立の形 (4) あばら筋の割付け (ア) 間隔が一樣でハンチのない場合は、図7.6による。 図7.6 あばら筋の割付け（その1） (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.6 あばら筋の割付け（その1） (イ) 間隔が一樣でハンチのある場合は、図7.7による。 図7.7 あばら筋の割付け（その2） (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.7 あばら筋の割付け（その2） (ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。 図7.8 あばら筋の割付け（その3） (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。 図7.8 あばら筋の割付け（その3）	(5) 腹筋及び幅止め筋 一般の梁は、図7.9による。 図7.9 腹筋および幅止め筋
---	--	---	--	--

(2) 単独小梁の場合は、図7.11による。

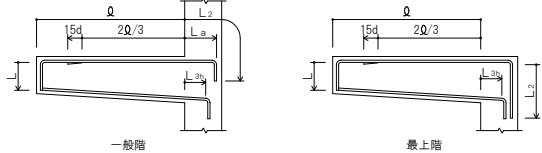


直交する梁へ斜めに定着する場合
(注) 1. 図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。
2. 印は、余長位置を示す。
図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(3) あばら筋は、7.2による。

7.4 片持梁

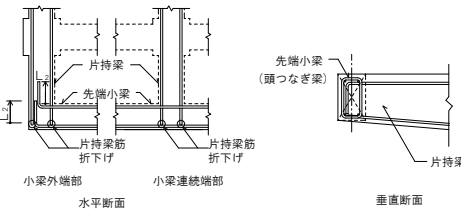
(1) 片持梁主筋の定着及び余長
(ア) 先端に小梁のない場合は、図7.12による。



一般端 最上端
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、余長位置を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(イ) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。



小梁外端部 小梁連続端部
水平断面 垂直断面
(注) 1. 図示のない場合は、(ア)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

(2) あばら筋は、7.2による。

8.1 壁

(1) 一般事項
(ア) 一般壁筋の重ね継手の長さはL₁とし、耐力壁筋の重ね継手長さは特記による。
また定着の長さはL₂とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
(イ) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
(ウ) 打増し部分に、壁及びスラブ等が取り付く場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

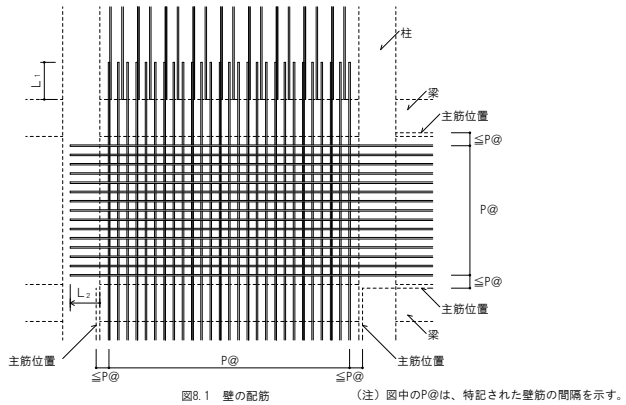


図8.1 壁の配筋 (注) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

(2) 壁の配筋は表8.1により、種別は設計図による。

表8.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200#シングル	120
W15A	D10-150#シングル	150
W15B	D10-100#シングル	150
W18A	D10-200#ダブル	180
W18B	D10-150#ダブル	180
W20A	D10-200#ダブル	200
W20B	D10-150#ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(3) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は設計図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋 D13-200#ダブル 横筋 D10-200#ダブル	180	KA1 KA3
KW2	縦筋 D13-150#ダブル 横筋 D10-200#ダブル	200	KA2 KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(4) 土圧を受ける壁の配筋は、設計図による。
(5) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

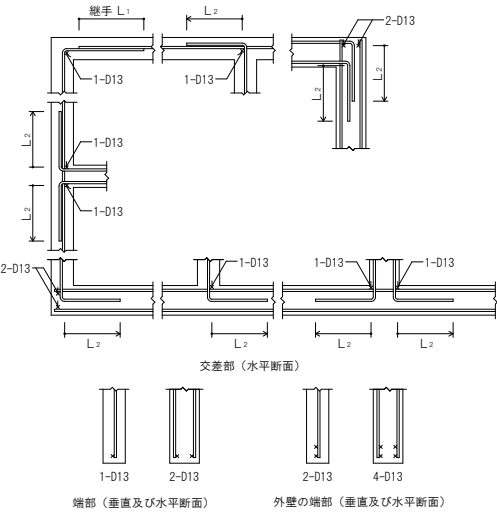


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 一般壁の補強

(1) 壁開口部の補強
(ア) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。
なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋(A形)

壁の種別	縦横	補強筋
W12, W15	1-D13	斜め 1-D13
W18, W20	2-D13	斜め 2-D13

表8.4 壁開口部補強筋(B形)

壁の種別	縦横	補強筋
W12, W15	2-D13	斜め 1-D13
W18, W20	4-D13	斜め 2-D13

(イ) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

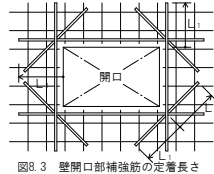


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(2) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、設計図による。

9.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がり、FLを基準とした寸法値とする。
(2) 土間スラブ下の砂利地床厚及び捨てコンクリート厚は設計図による。
(3) 土間コンクリート補強筋(D0)の配筋及びコンクリート厚さは設計図による。
(4) スラブの配筋(S形配筋)は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配力筋) 全域
S1	D13-100#	D13-100#	S8	D10, D13-150#	D10-150#
S2	同上	D13-150#	S9	同上	D10-200#
S3	同上	D10, D13-150#	S10	D10, D13-200#	D10, D13-200#
S4	D13-150#	D13-150#	S11	同上	D10-200#
S5	同上	D10, D13-150#	S12	同上	D10-250#
S6	同上	D10-150#	S13	D10-200#	D10-200#
S7	D10, D13-150#	D10, D13-150#	S14	同上	D10-250#

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

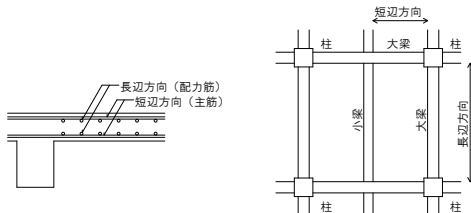


図9.1 スラブの配筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(6) 原則として引き通し、鉄筋の重ね継手長さはL₁とする。
(7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

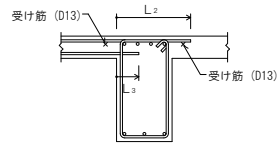


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

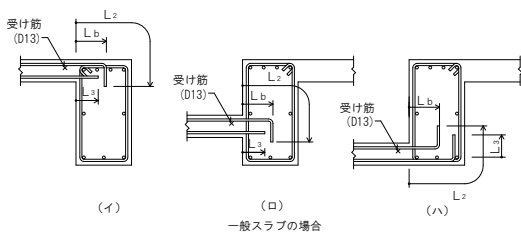


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

9.2 片持スラブ

片持スラブは、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。
プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、設計図による。

片持スラブの配筋は、次による。

(1) 片持スラブの配筋(CS形配筋)は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、設計図による。

表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100# 下 D13-200#	CS5	上 D10-200# 下 D10-400#
CS2	上 D13-150# 下 D13-300#	CS6	上 D10, D13-200# 下 —
CS3	上 D10, D13-150# 下 D10, D13-300#	CS7	上 D10-200# 下 —
CS4	上 D10, D13-200# 下 D10-200#		

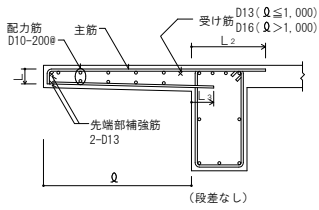
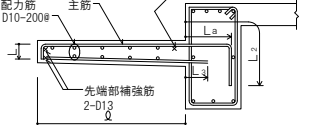


図9.4 片持スラブの配筋 (CS11 からCS15)



(注) 1. 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS16及びCS17)

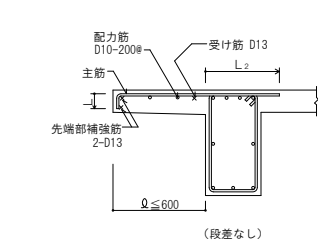
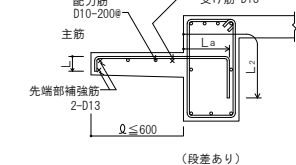


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋



(注) 1. 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.7 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

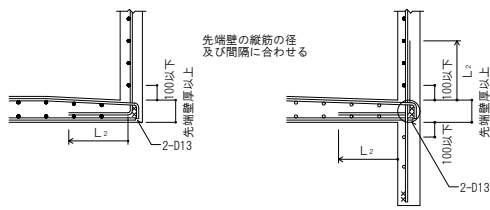
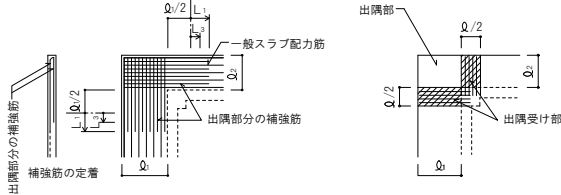


図9.8 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部
(ア) 出隅部の補強筋は設計図により、配筋方法は、図9.7による。
(イ) 出隅受け部分(図9.7の斜線部分)の補強筋は設計図による。



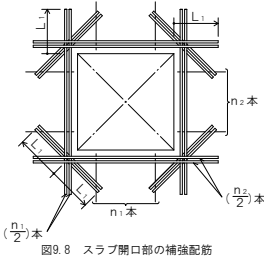
(注) Q₁ ≧ Q₂とする

(注) 1. Q₁ ≧ Q₂とする
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL₁定着する。

図9.9 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

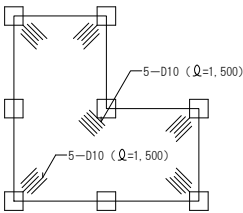
9.3 スラブ等の補強

- (1) スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、設計図による。設計図になければ、(ア) (イ)による。
(ア) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($\bar{Q}=2L_1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。



- (イ) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

- (2) 屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



- (3) 土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

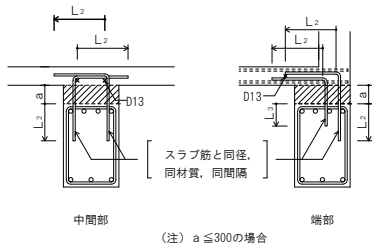


図9.10 打継ぎ補強配筋

- (4) 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、設計図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

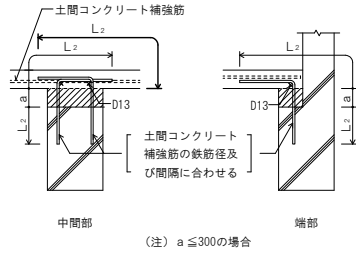


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

		t : スラブ厚さ	
配筋種別		KA1	KA2
配筋図			
配筋種別		KA3	KA4
配筋図			

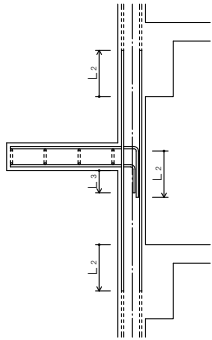


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材又は現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は設計図による。

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、設計図による。

表10.2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

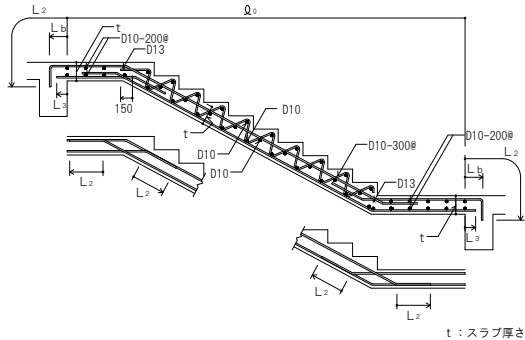
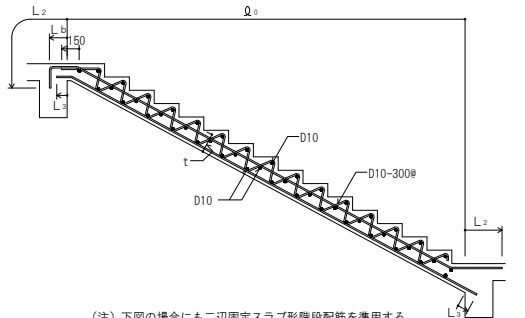


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

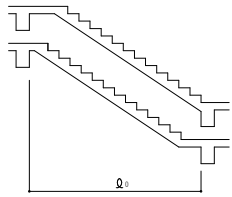


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11.1 梁貫通孔

- (1) 梁貫通孔は、次による。
(ア) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
(イ) 孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
(ウ) 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
(エ) 孔は、柱面から原則として、1.5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(オ) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(カ) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(キ) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(ク) 溶接金網の余長は、1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(ケ) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(コ) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
(サ) 他の開孔を設けない範囲は、図11.3による。

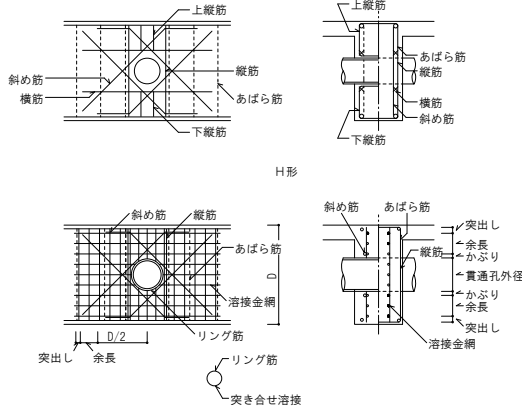


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

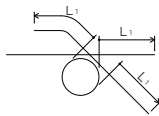


図11.2 補強筋の定着長さ

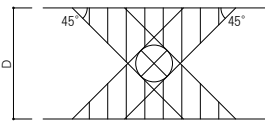


図11.3 他の開孔を設けない範囲

- (2) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.2により、配筋種別は設計図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19			

(注) ----- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

- (1) 控壁は、次による。
(ア) 控壁の配置は、設計図による。
(イ) 配筋は、図11.4による。

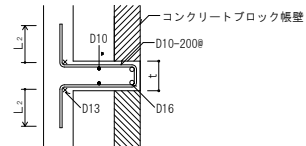


図11.4 控壁の配筋 (水平、垂直とも)

- (2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

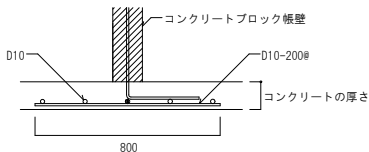


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 バラベット

バラベットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

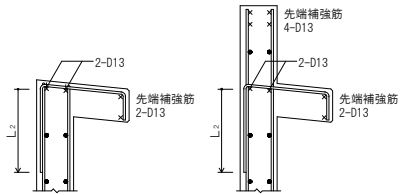


図11.6 バラベットの先端補強筋

12 擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

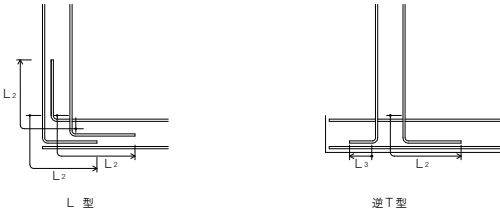


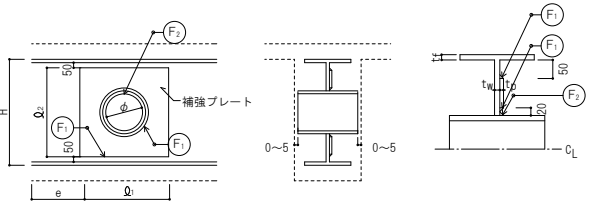
図12 擁壁の鉄筋の定着長さ

構造関係共通図（鉄骨標準図）		
総則		
1. 適用範囲		
(1) 本構造関係共通図は鉄骨及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な基準とする。		
(2) 本構造関係共通図以外については、設計図及び監督員の指示による。		
2. 用語の定義		
(1) 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書（構造関係）、構造関係共通図以外の図面をいう。		
(2) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。		
3. 優先順位		
(1) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。		
1. 特記仕様書（構造関係）		
2. 図面		
2-1 設計図		
2-2 構造関係共通図（鉄骨標準図）		
3. 国土交通省大臣官庁官		

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

A diagram showing a horizontal chain of 10 ovals. Below the chain, a horizontal line is divided into three segments by vertical tick marks. The segments are labeled 'La', 'L', and 'Lb' from left to right. The 'La' segment corresponds to the first 3 ovals, the 'L' segment to the next 4 ovals, and the 'Lb' segment to the last 3 ovals.

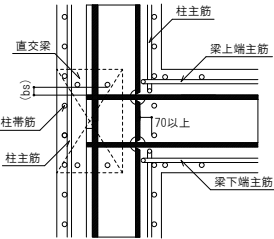
(イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



Q_1 は 3 ϕ または Q_2 のうち小さい方とする。 ($e \geq H$ とする)
 e : 材端と補強プレートの間隔

Figure 1 illustrates the reinforcement layout for a square column. The main diagram shows a square cross-section with a grid of reinforcement bars. A circular callout provides a detailed view of the corner lap joint, showing the bars overlapping and being secured with stirrups. Labels include "D13以上の筋立筋 (柱幅≧700mm)" pointing to the main reinforcement bars and "筋6" pointing to the corner stirrups.

(単位: mm)								
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46



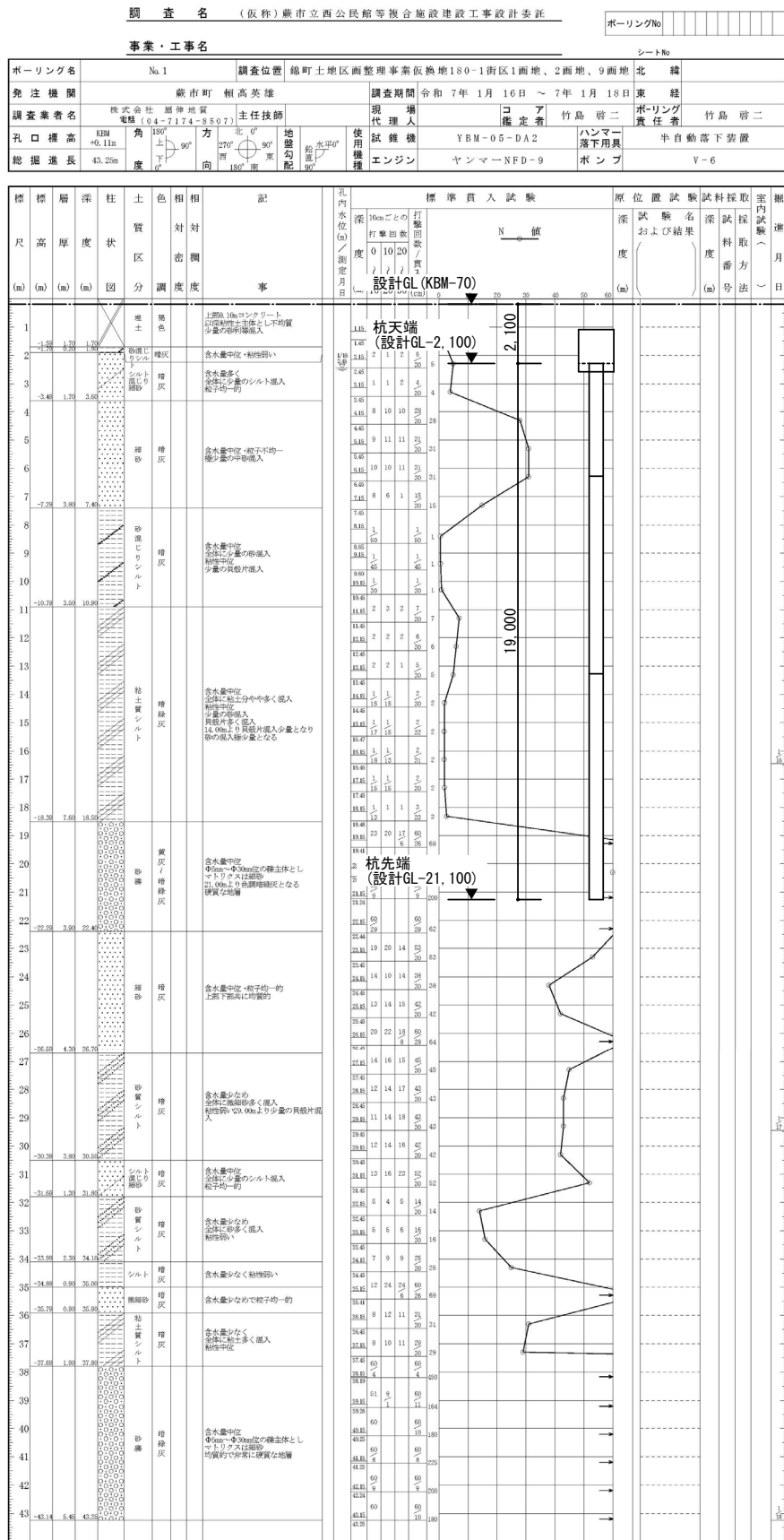
(a) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL表記であっても FB又はPLとする。

(b) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

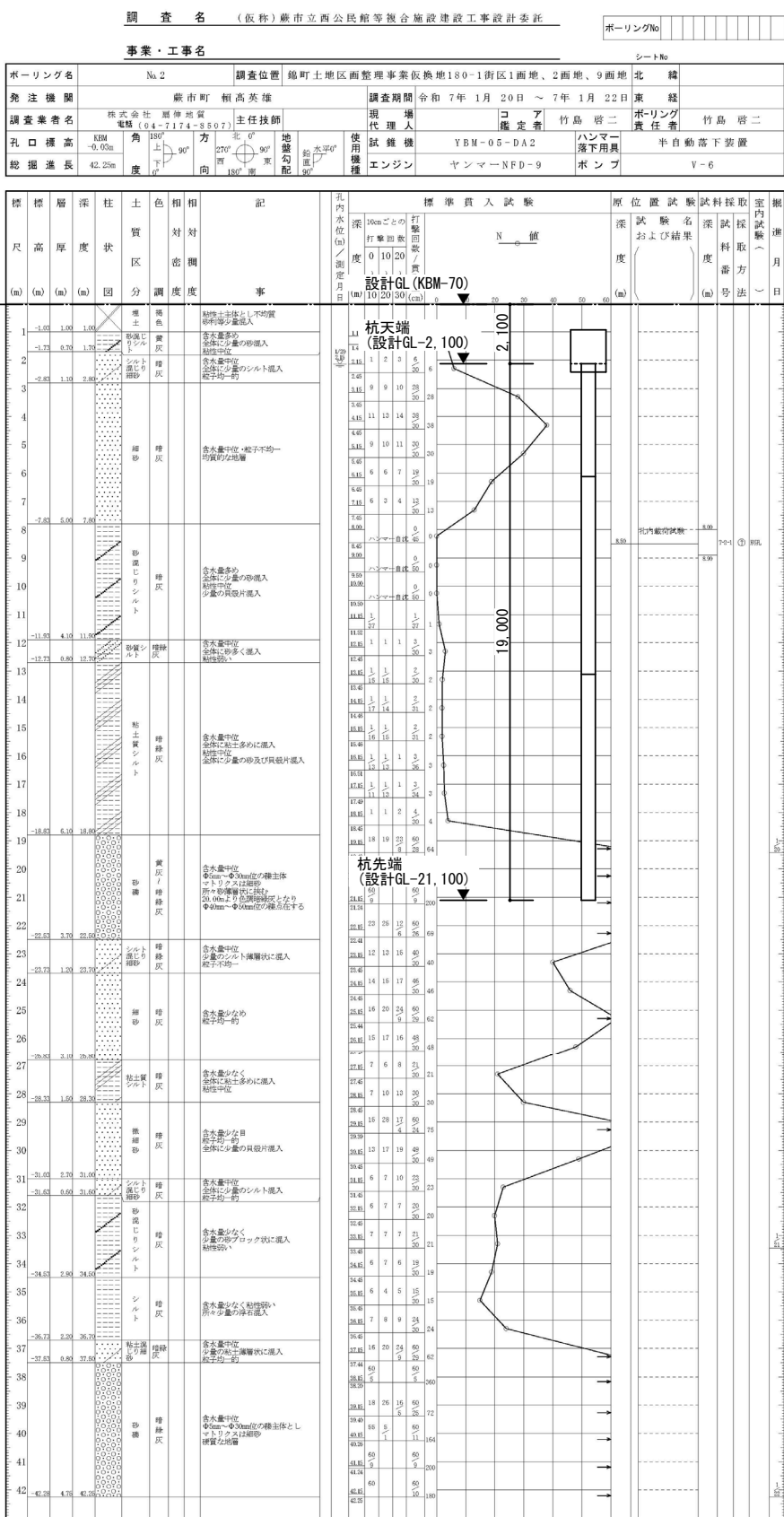
		厚度											
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40	
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	350			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	450					○	○	○	○	○	○	○	
500					○	○	○	○	○	○	○		

(a) フィラープレートの材質
フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。

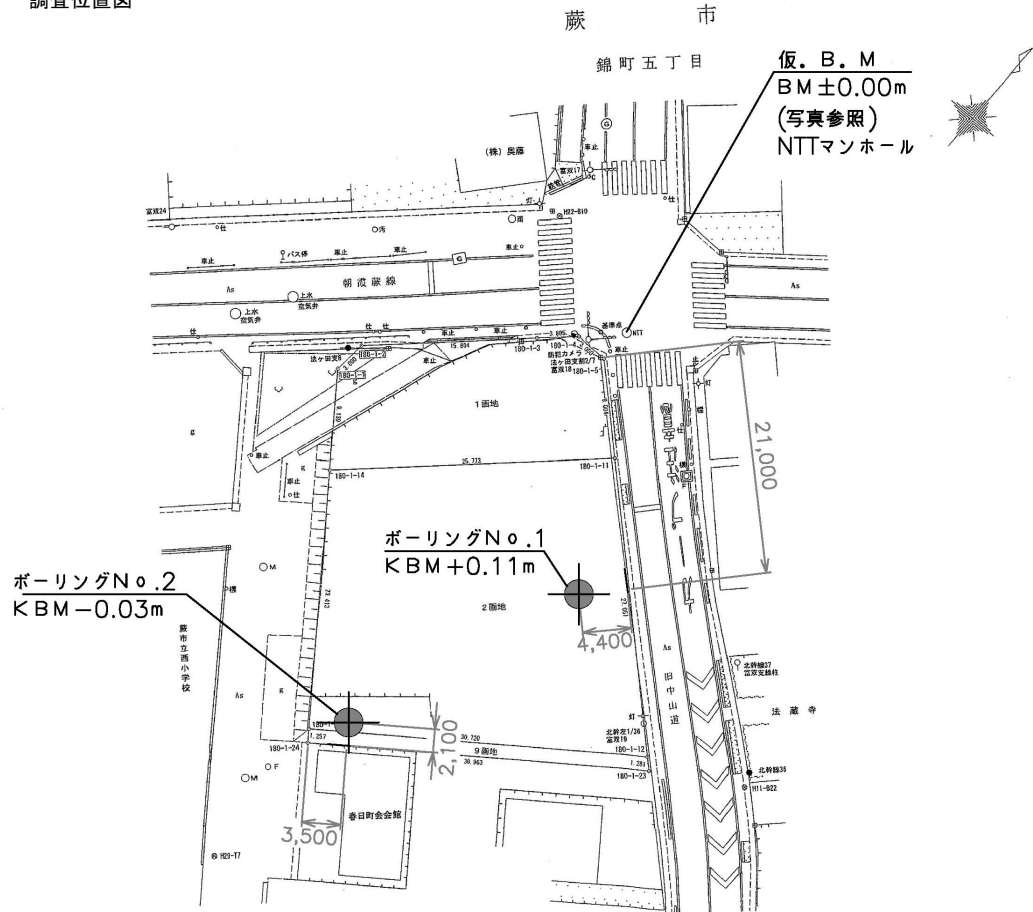
ボーリング柱状図

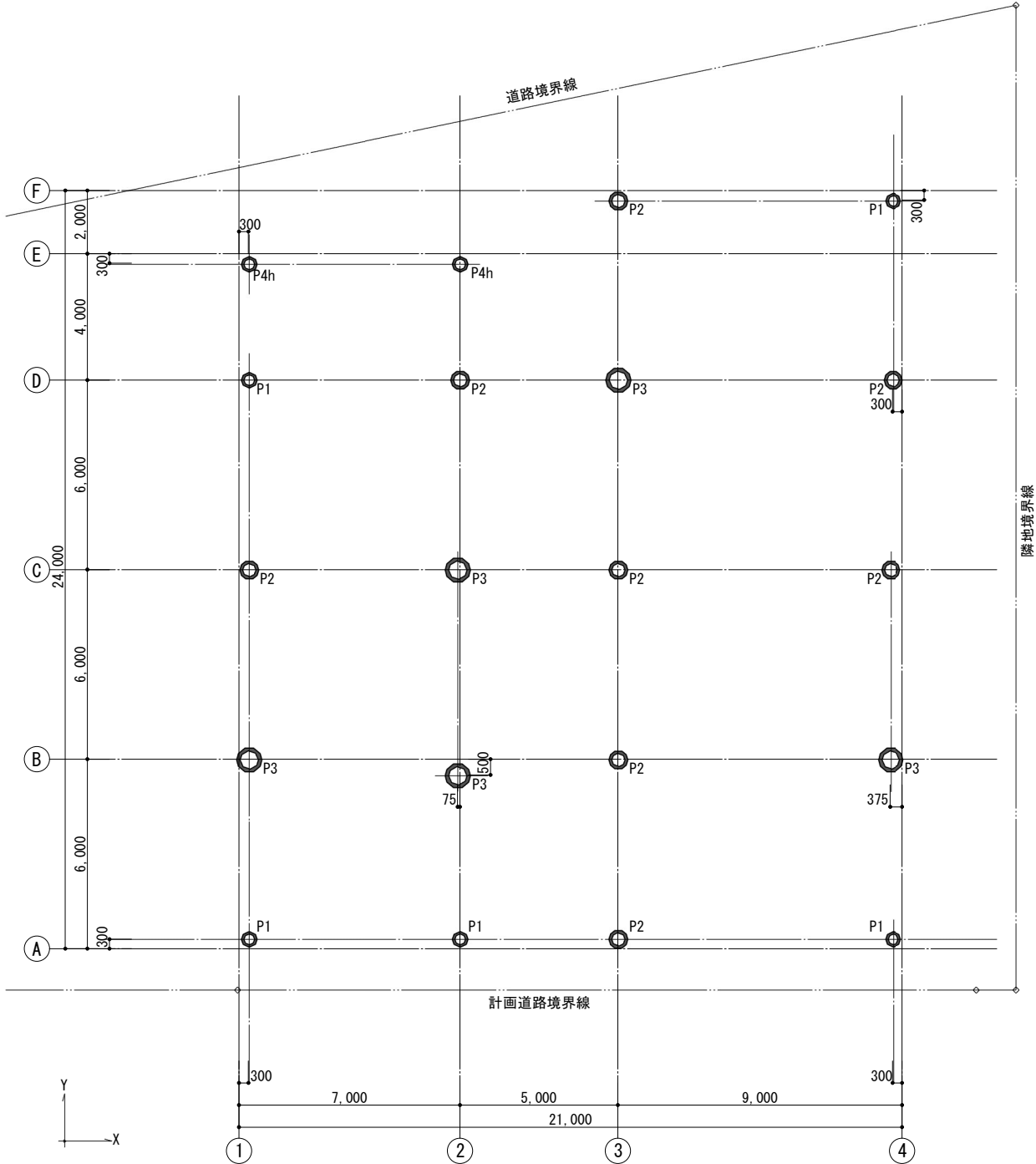


ボーリング柱状図



調査位置図

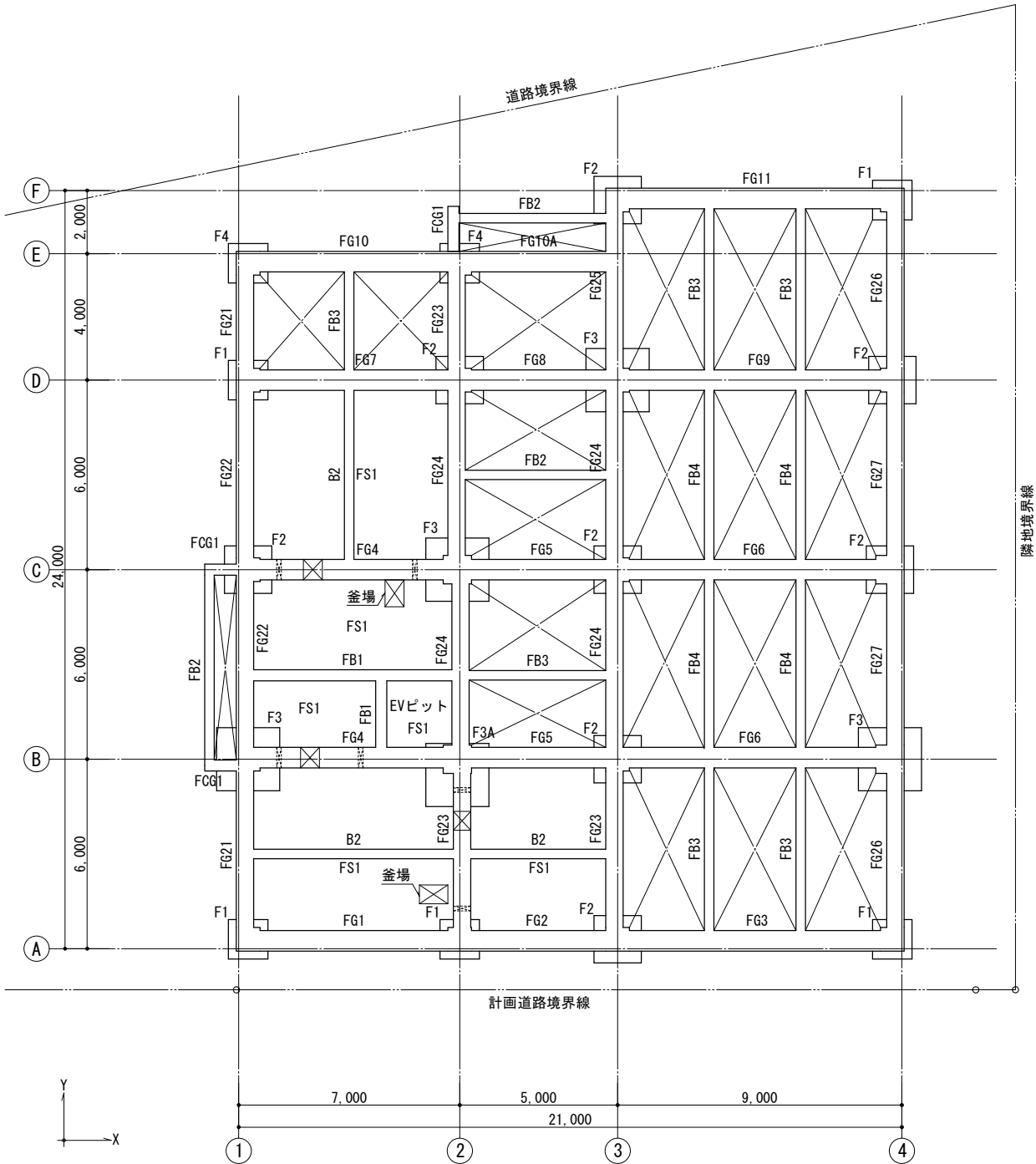




杭伏図 S=1/100

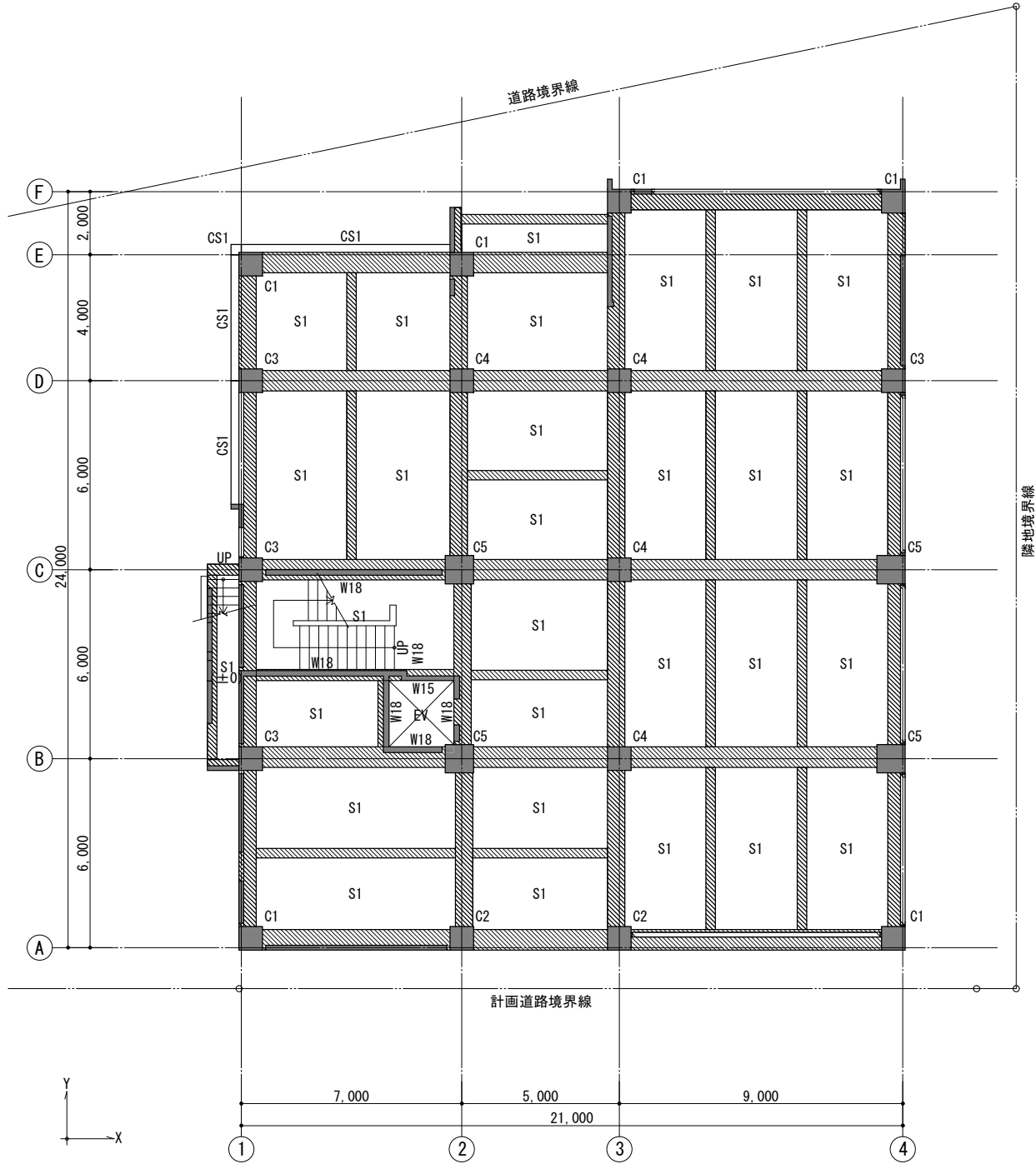
工法：MRXX工法 コンクリート設計基準強度：F_c=105N/mm²
注）杭施工の際に不具合が生じないよう、施工機械の重量等に応じて地盤改良を行うこと。

杭符号	杭径	杭種	長さ (m)	全長 (m)	杭天端 レベル (mm)	杭先端 レベル (mm)	長期許容 支持力 (kN/本)	本数	杭頭補強筋
P1	500	上 HIT-SC II (S) t6	4.00	19.00	設計GL -2,100	設計GL -21,100	1970	5	NewJ-BAR 6-WD32J
	500	中I HIT-PHC(S) A	7.00						
	5060	下 HIT-ST-XX (S) A	8.00						
P2	600	上 HIT-SC II (S) t6	4.00	19.00	設計GL -2,100	設計GL -21,100	2640	8	NewJ-BAR 6-WD32J
	600	中I HIT-PHC(S) A	7.00						
	6070	下 HIT-ST-XX (S) A	8.00						
P3	800	上 HIT-SC II (S) t6	4.00	19.00	設計GL -2,100	設計GL -21,100	4190	5	NewJ-BAR 8-WD32J
	800	中I HIT-PHC(S) A	7.00						
	8090	下 HIT-ST-XX(S) A	8.00						
P4h	500	上 HIT-SC II (S) t9	4.00	22.00	設計GL -2,100	設計GL -24,100	1970	2	NewJ-BAR 7-WD38J
	500	中I HIT-PHC(S) C	9.00						
	5060	下 HIT-ST-XX(S) B	9.00						



基礎伏図 S=1/100

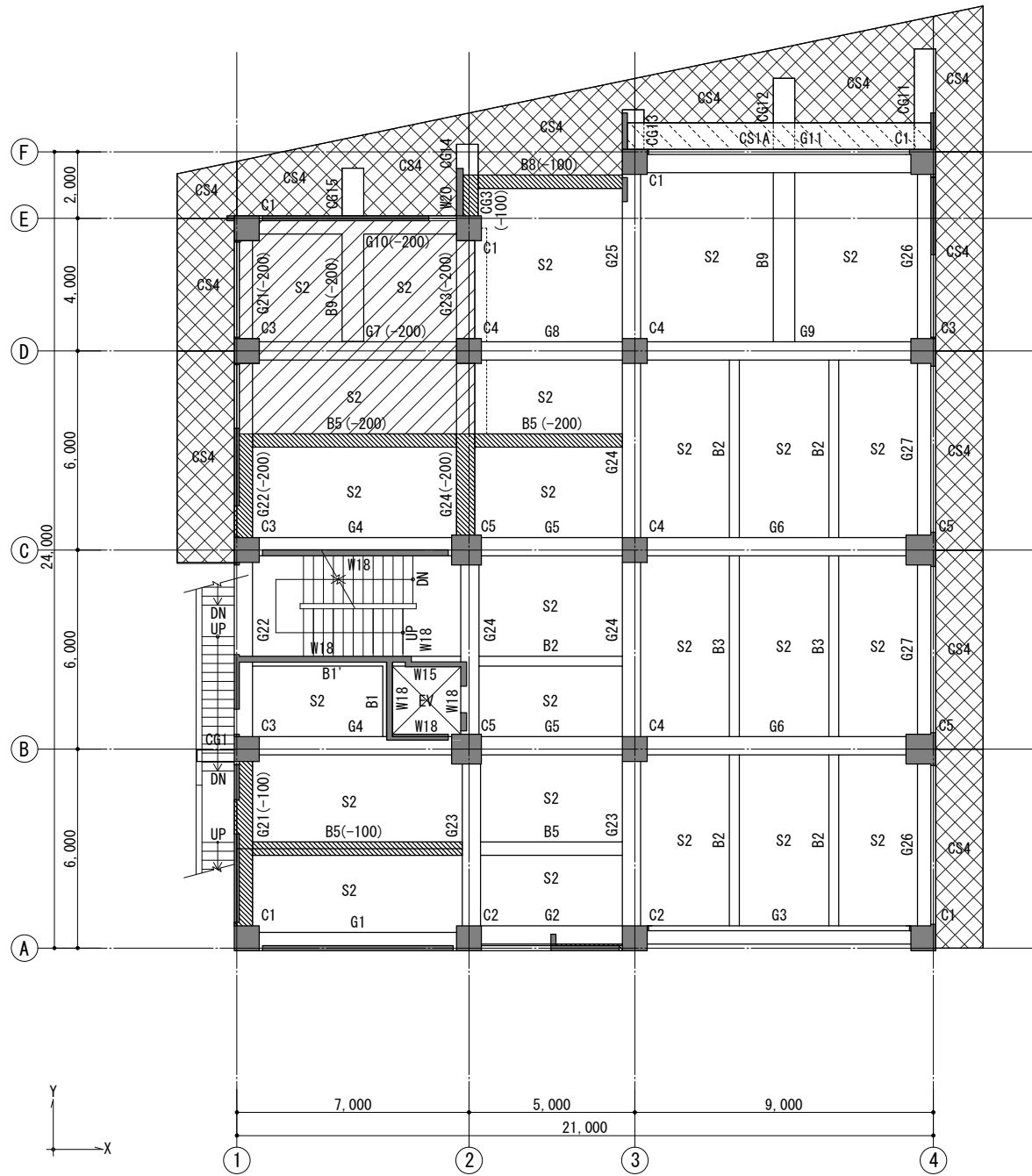
- 特記なき限り下記による。
- 基礎下端レベルは、設計GL-2,400とする。
 - 基礎梁天端レベルは、設計GL-200とする。
 - ()内数値は、設計GLからの基礎梁天端レベルを示す。
 - は、梁増打ち部分を示す。
 - ビット天端は、設計GL-1,900とする。
 - EVビット天端は、設計GL-1,200とする。
 - は、埋戻しを示す。
 - は、人入口 (600φ) を示す。
 - は、上部通気口、下部通水口を示す。



1階伏図(見下げ) S=1/100

特記なき限り下記による。

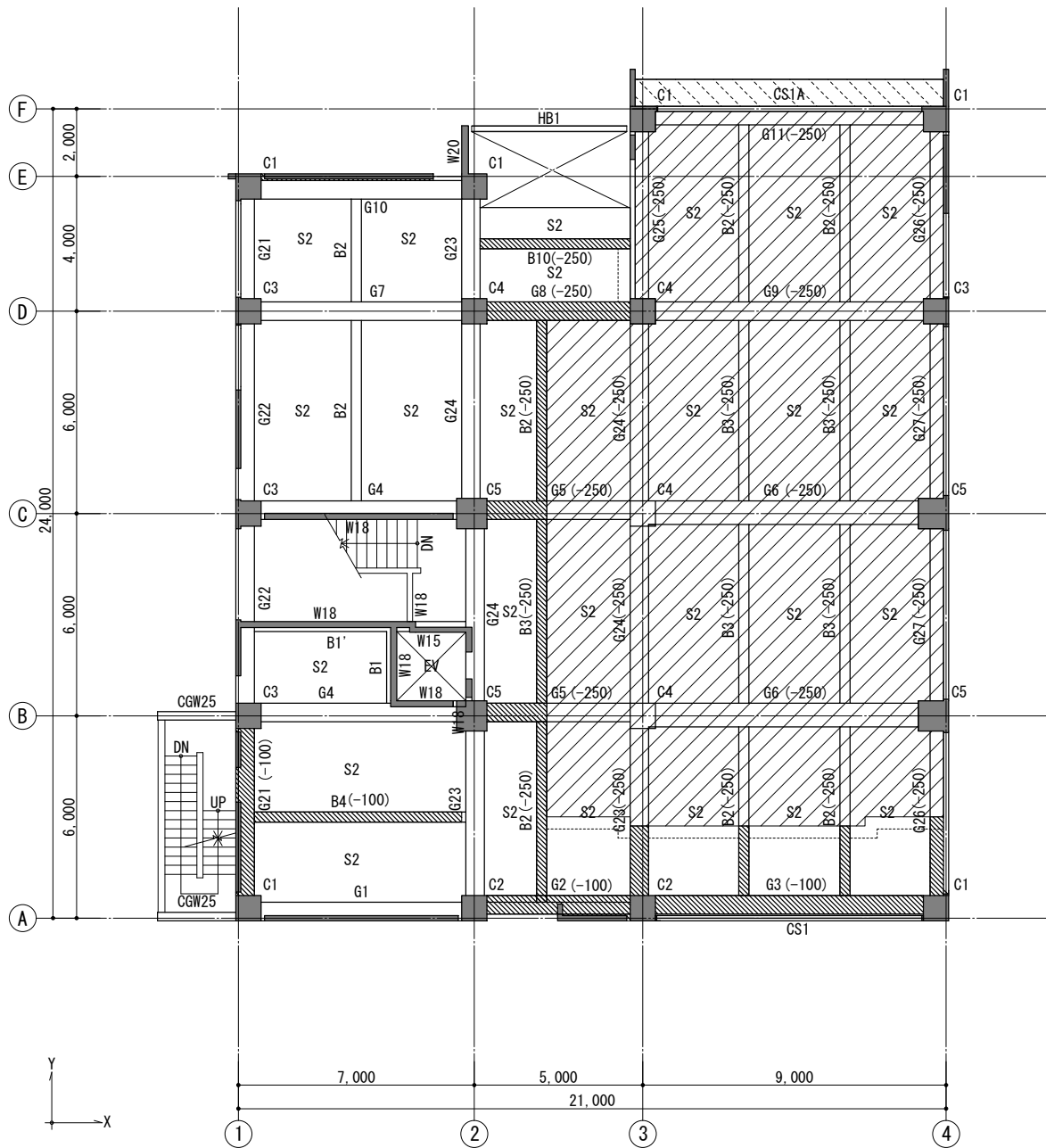
1. 1FL=設計GL+100とする。
2. 壁は、W15とする。
3. 床スラブ天端は、FL-50とする。
3. ()内は、床スラブ天端レベルを示す。
4.  は、梁増打ち部分を示す。
5. 増打ち天端レベルは、FL-50とする。
6. スリット位置は、軸組図による。



2階伏図(見下げ) S=1/100

特記なき限り下記による。

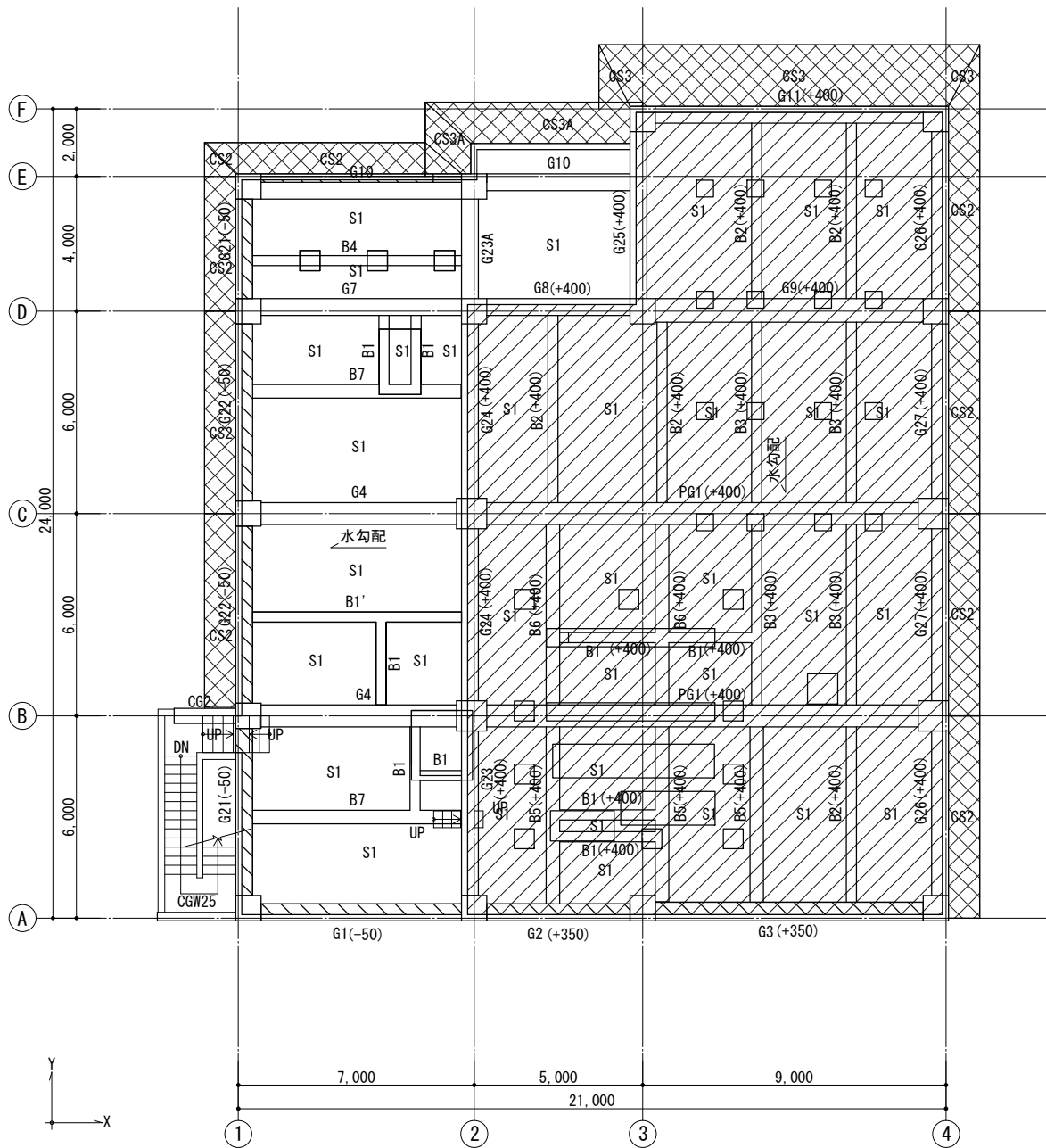
1. 壁は、W15とする。
2. 梁天端は、2FL-15とする。
3. ()内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
4.  は、梁増打ち部分を示す。
5. 増打ち天端レベルは、2FL-15とする。
6. 床天端レベルは、2FL-15とする。
7.  は、床天端レベル2FL-100~-130を示す。
8.  は、床天端レベル2FL-200を示す。
9.  は、床天端レベル2FL-800を示す。
10. スリット位置は、軸組図による。



3階伏図(見下げ) S=1/100

特記なき限り下記による。

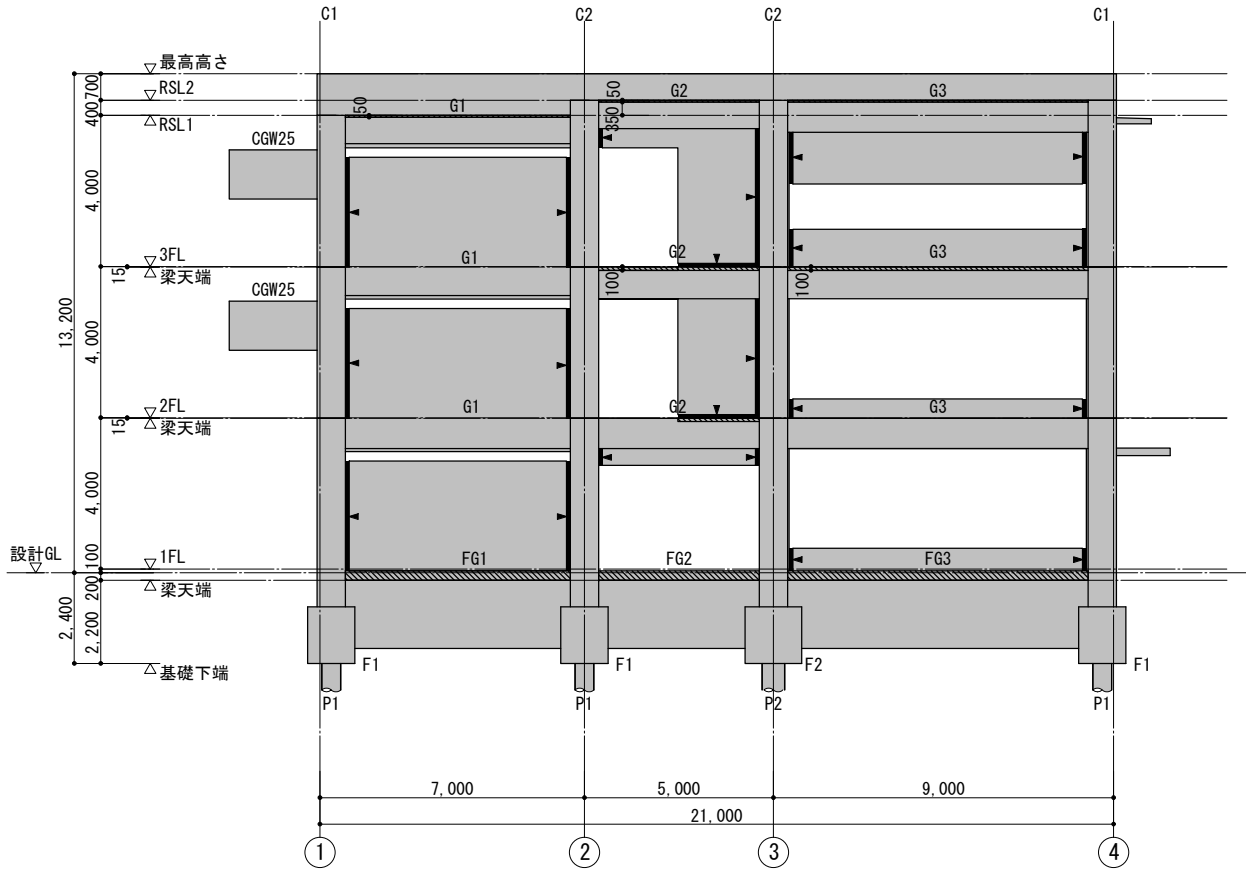
1. 壁は、W15とする。
2. 梁天端は、3FL-15とする。
3. ()内数値は、3FLからの梁天端レベルを示す。
4.  は、梁増打ち部分を示す。
5. 増打ち天端レベルは、3FL-15とする。
6. 床天端レベルは、3FL-15とする。
7.  は、床天端レベル3FL-100~-130を示す。
8.  は、床天端レベル3FL-250を示す。
9. スリット位置は、軸組図による。



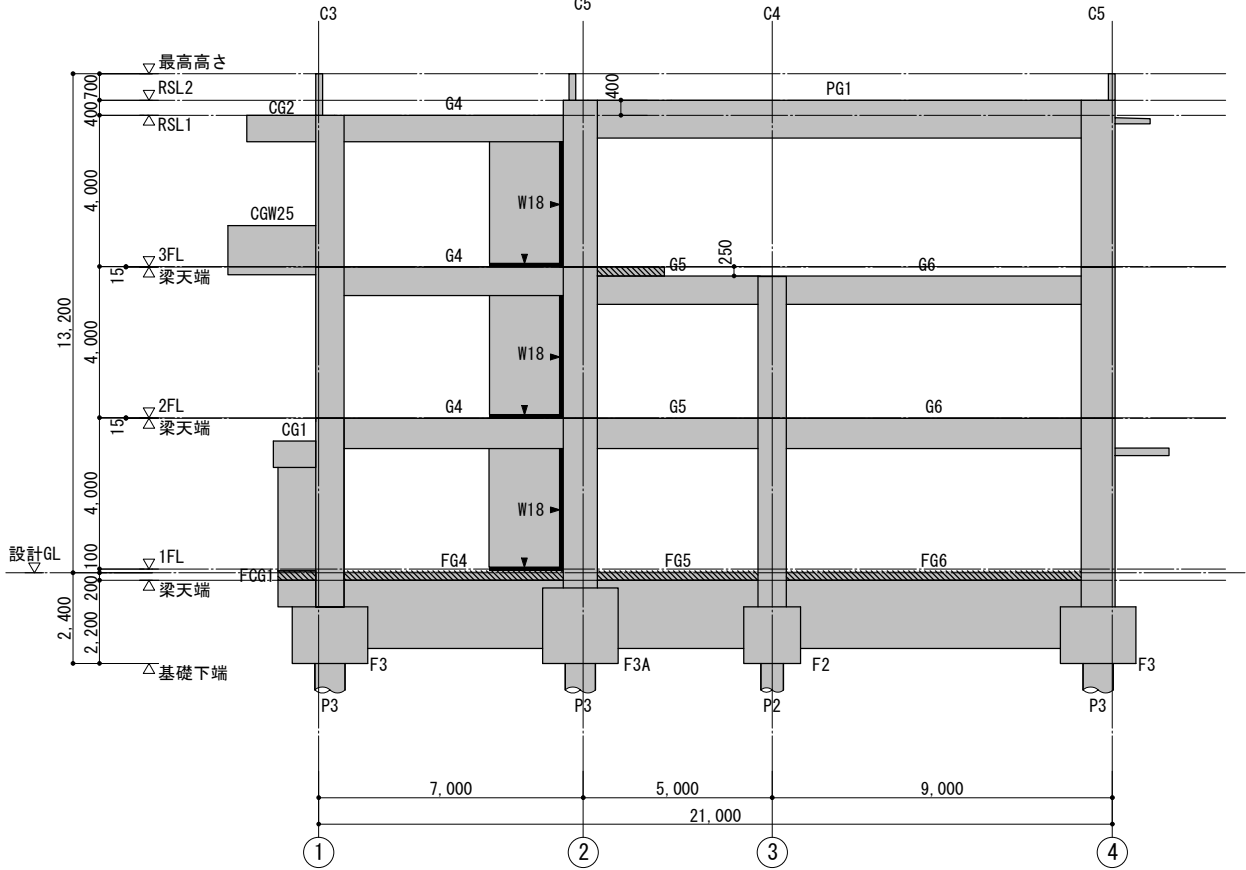
R階伏図(見下げ) S=1/100

特記なき限り下記による。

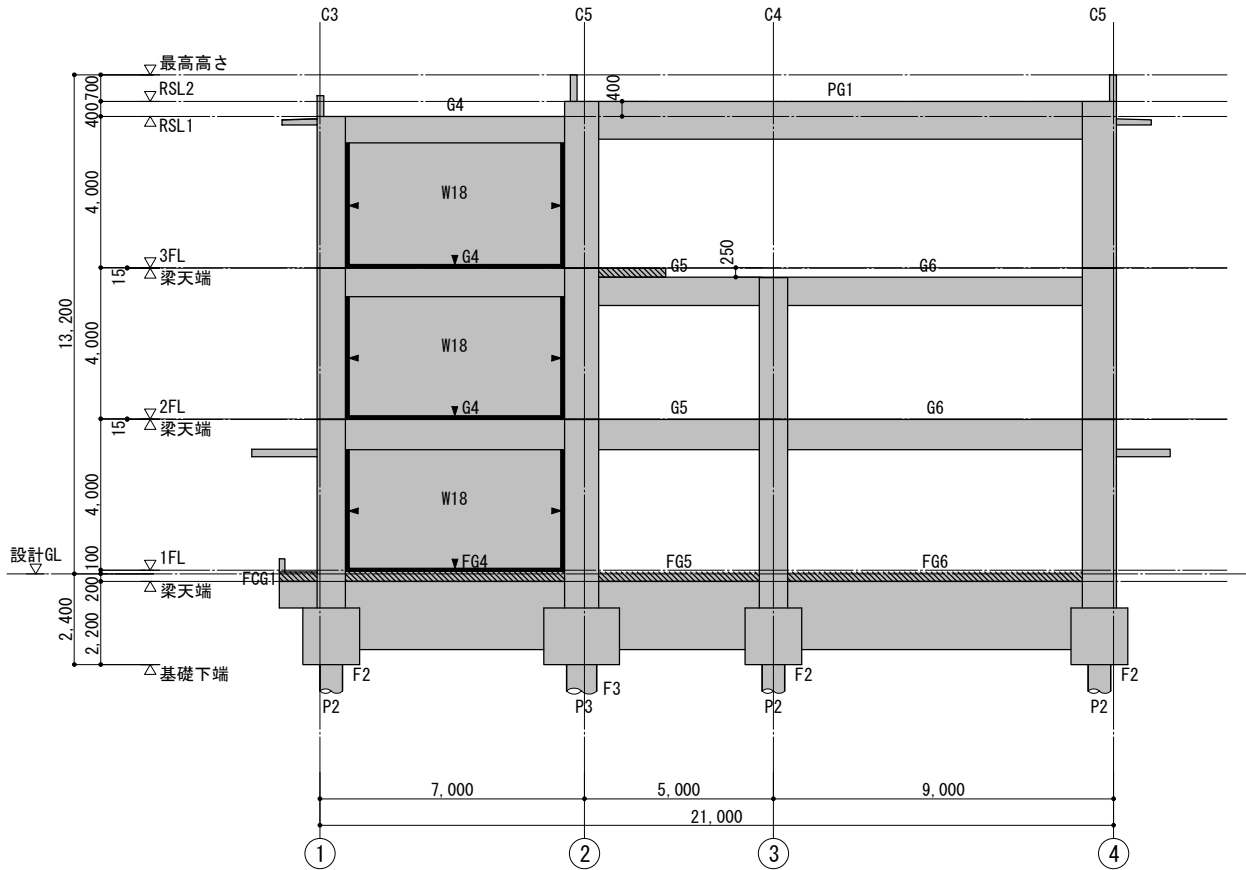
1. 梁天端は、RSL1±0とする。
2. ()内数値は、RSL1からの梁天端レベルを示す。
3.  は、梁増打ち部分を示す。
4. 増打ち天端レベルは、床天端レベルまでとする。
5. 床天端レベルは、RSL1±0とする。
6.  は、床天端レベルRSL1+400~+638を示す。
7.  は、床天端レベルRSL1-60~-90を示す。
8. 梁天端は、スラブ勾配なりに増打ちとする。



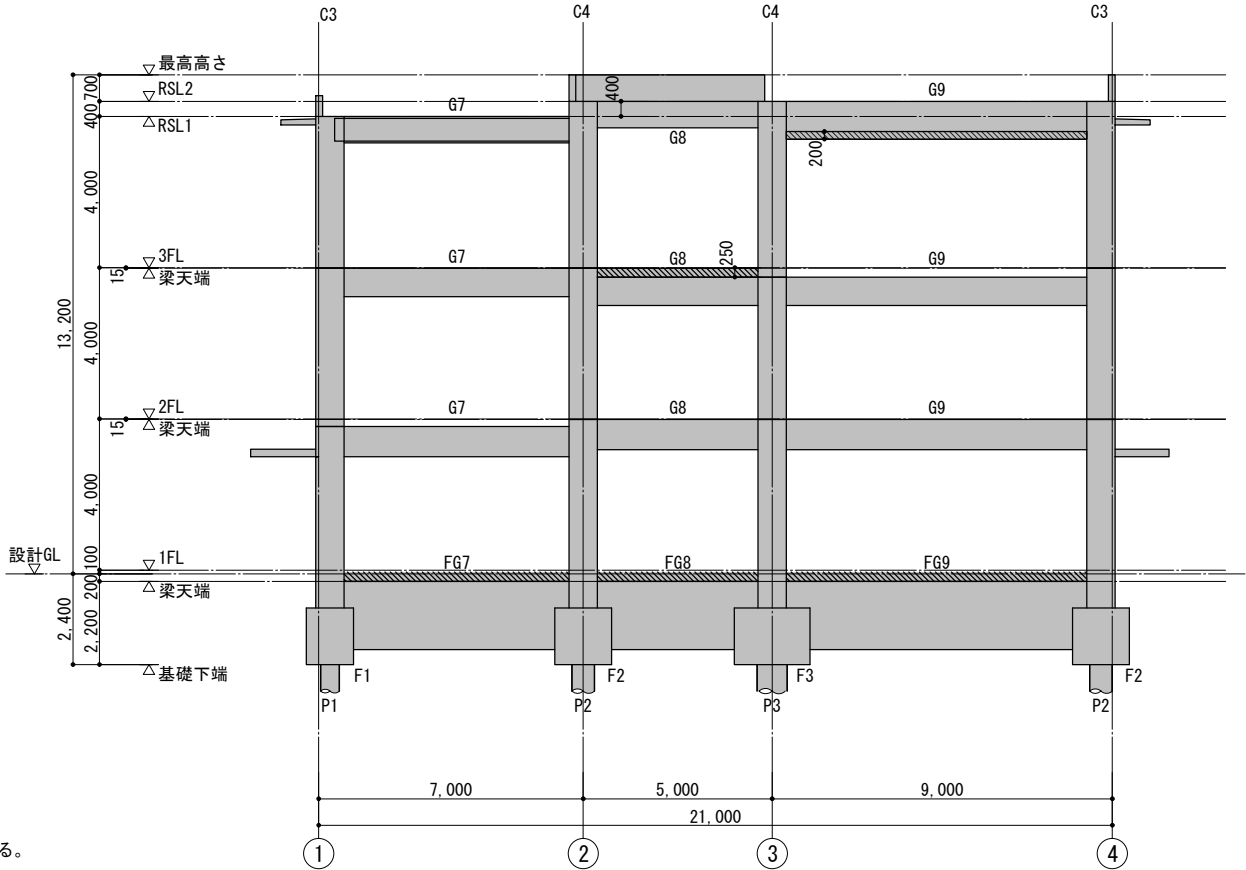
A通り軸組図 S=1/100



B通り軸組図 S=1/100



C通り軸組図 S=1/100



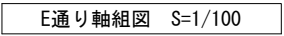
D通り軸組図 S=1/100

＜軸組図共通特記事項＞

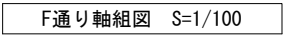
特記なき限り下記による。

1. 壁は、W15とする。
2. は、梁増打ち部分を示す。
3. は、構造スリットを示す。

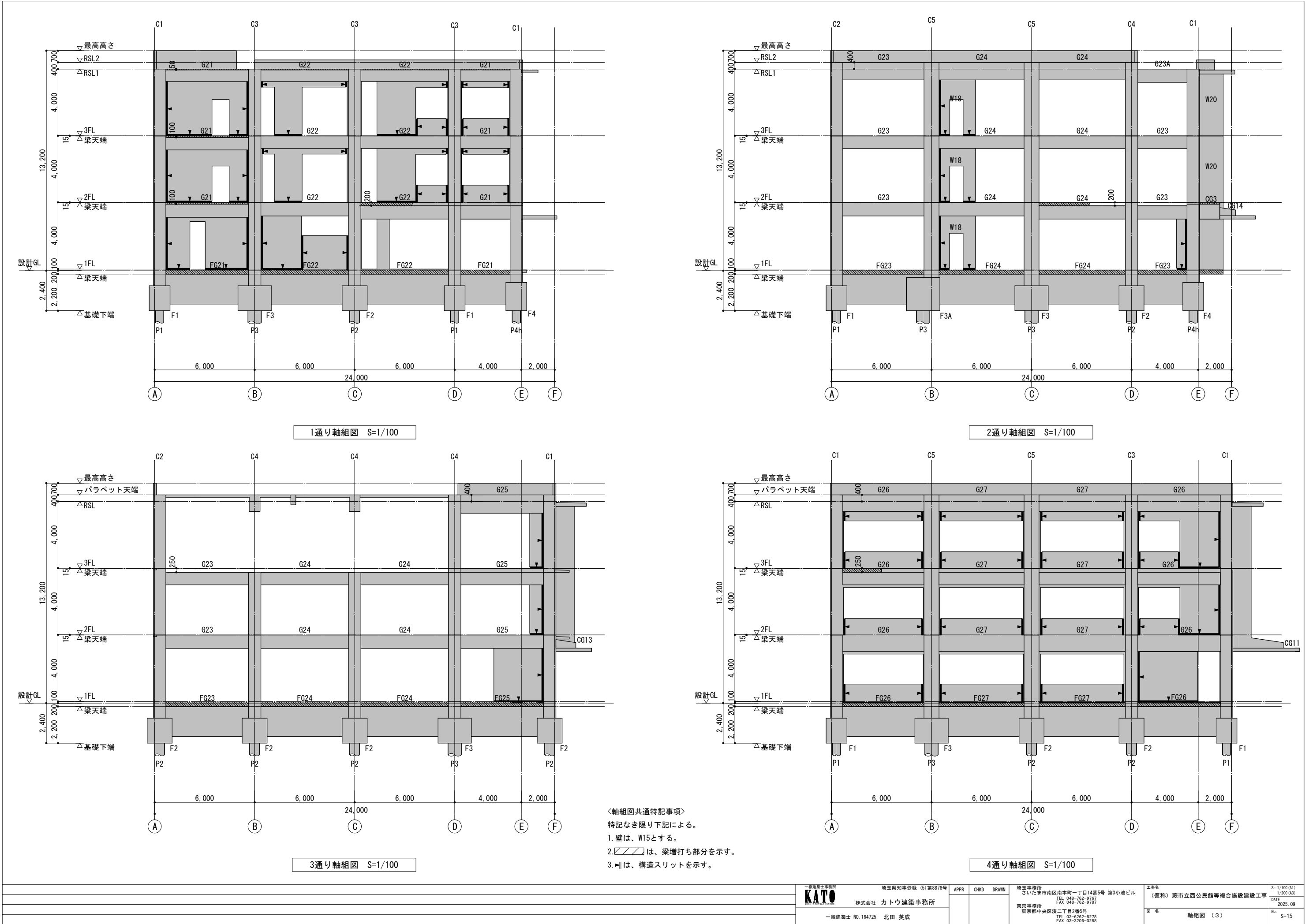
一級建築士事務所 KATO 株式会社 カトウ建築事務所			埼玉県知事登録 (5)第8878号 APPR CHKD DRAWN			埼玉事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9767			工事名 (仮称) 蕨市立西公民館等複合施設建設工事	S= 1/100 (A1) 1/200 (A3)
一級建築士 NO.164725 北田 英成						東京事務所 東京都中央区浜二丁目2番5号 TEL 03-6262-8278 FAX 03-3206-0288			図 名 軸組図 (1)	DATE 2025. 09 No. S-13



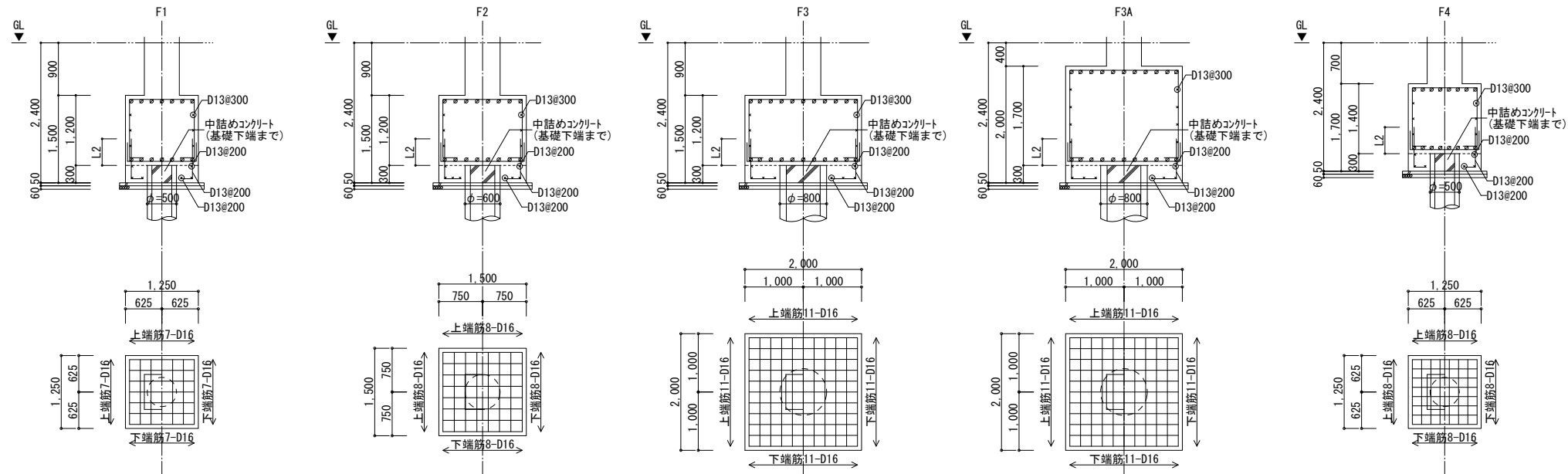
3. ▶|| は、構造スリットを示す。



一般建築士事務所 増玉県知事登録 (5) 第6878号	APPR	CHKD	DRAWN	増玉事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9787	工事名 (仮称) 蕨市立西公民館等複合施設建設工事	S= 1/100 (A1) 1/200 (A3)
株式会社 カトウ建築事務所 KATO ARCHITECTS				東京事務所 東京都中央区浜二丁目2番5号 TEL 03-4262-8278 FAX 03-3206-0288	DATE 2025.09	
一般建築士 NO. 164725 北田 英成					図 名 軸組図 (2)	No. S-14

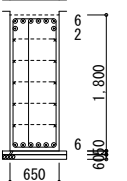
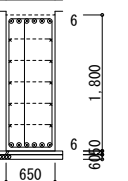
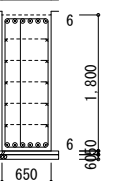
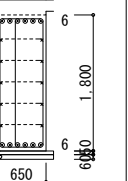
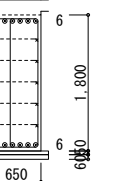
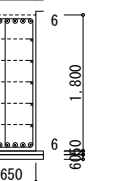
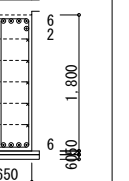
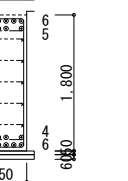
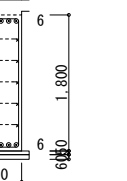
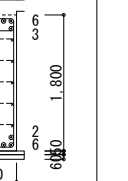
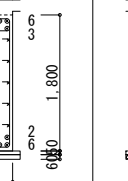
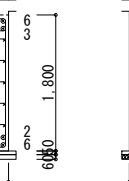
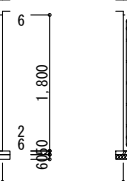
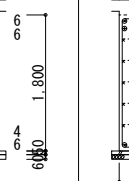
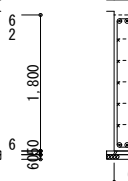
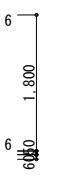
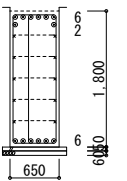
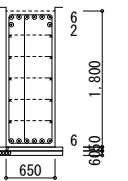
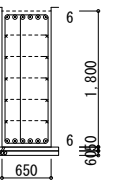
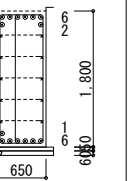
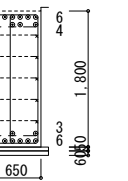
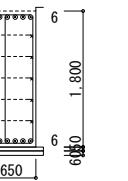
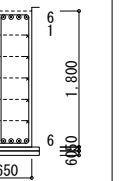
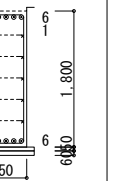
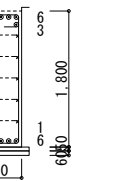
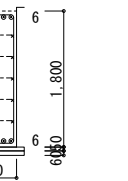
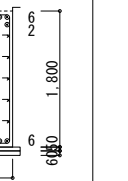
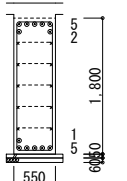
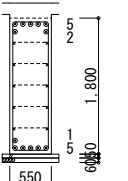
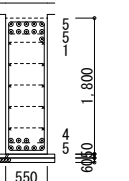
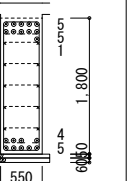
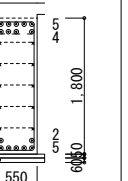
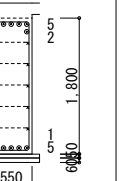
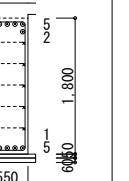


基礎リスト 1:50



基礎梁リスト 1:50

特記なき限り下記とする。
1. 巾止筋は、D10@1,000以内とする。 2. 基礎梁主筋はX方向を上側、Y方向を下側に配筋すること。 3. < >内はカットオフ筋のカットオフ長さを示し、<一段筋長さ/二段筋長さ>とする。特記なき位置のカットオフ長さはS-03、S-04による。

符 号	FG1			FG2	FG3			FG4			FG5	FG6			FG7				
位 置	外端	中央	内端	全断面	内端	中央	外端	外端	中央	内端	全断面	内端	中央	外端	端部	中央			
断 面																			
B × D	650x1,800			650x1,800	650x1,800			650x1,800			650x1,800	650x1,800			650x1,800				
上端筋	6/2-D25<-/2200>			6-D25	6-D25	6-D25	6/2-D25	6/5-D25<-/2800>			6-D25	6/3-D25<-/2400>			6/3-D25	6/2-D25<-/2200>	6-D25		
下端筋	6-D25			6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6/4-D25<-/2350>			6-D25	6/2-D25<-/2100>			6/2-D25	6/2-D25	6/4-D25<-/2500>		
肋 筋	□□-D13 @200			□□-D13 @200	□□-D13 @200			□□-D13 @200			□□-D13 @200	□□-D13 @200			□□-D13 @200				
腹 筋	10-D13			10-D13	10-D13			10-D13			10-D13	10-D13			10-D13				
符 号	FG8		FG9		FG10			FG10A		FG11									
位 置	全断面		内端	中央	外端	外端	中央	内端	全断面		3端	中央	4端						
断 面																			
B × D	650x1,800		650x1,800		650x1,800			650x1,800		650x1,800									
上端筋	6/2-D25		6/2-D25	6-D25	6/2-D25	6/4-D25<-/2600>		6-D25	6/1-D25<-/2000>	6/1-D25	6/3-D25<-/2400>		6-D25	6/2-D25					
下端筋	6-D25		6-D25	6-D25	6/1-D25	6/3-D25<-/2300>		6-D25	6-D25	6-D25	6/1-D25		6-D25	6-D25					
肋 筋	□□-D13 @200		□□-D13 @200		□□-D13 @200			□□-D13 @200	□□-D13 @200		□□-D13 @200								
腹 筋	10-D13		10-D13		10-D13			10-D13		10-D13									
符 号	FG21		FG22		FG23		FG24		FG25		FG26		FG27						
位 置	全断面		全断面		全断面		全断面		全断面		全断面		全断面						
断 面																			
B × D	550x1,800		550x1,800		550x1,800		550x1,800		550x1,800		550x1,800								
上端筋	5/2-D25		5/2-D25		5/5/1-D25		5/5/1-D25		5/4-D25		5/2-D25								
下端筋	5/1-D25		5/1-D25		5/4-D25		5/4-D25		5/2-D25		5/1-D25								
肋 筋	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200								
腹 筋	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13								

基礎小梁リスト 1:50

符 号	FB1	FB2	FB3			FB4	
位 置	全断面	全断面	外端	中央	内端	端部	中央
断 面							
	B x D	350x1,800	300x600	300x600			300x600
	上端筋	3-D22	3-D19	3-D19	3-D19	3/2-D19	3-D19
	下端筋	3-D22	3-D19	3-D19	3/1-D19	3-D19	3-D19
	肋 筋	□-D10 @200	□-D10 @200	□-D10 @200			□-D10 @200
腹 筋	10-D13	2-D10	2-D10			2-D10	

人通孔補強筋要領図 1:30

特記なき限り下記による。

1. 人通孔からの、設計かぶり厚さを確保すること。

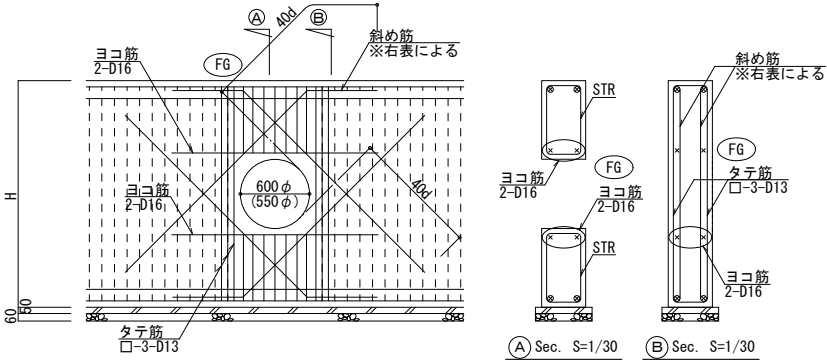
2. 補強筋は、基礎梁主筋からの必要あき間隔を確保すること。

3. 人通孔の孔径は 600φ 又は 550φとし、基礎梁断面中央部に設けること。尚、人通孔上下に、通気孔・通水孔等を設けてはならない。

4. 孔際スターラップは、ダブル巻きとする。
5. 基礎梁の梁貫通孔は、原則として柱面から基礎梁成または1.0m以内にあってはならない。

6. 孔径(外径)が、基礎梁成の1/10以下かつ125mm未満の場合は、補強筋を不要とする。但し、貫通間隔は守るものとする。

7. 認定品の使用も可とする。



梁符号	梁 成	孔 径 (mm)	斜め筋
FG4	1,800	600φ	2-D19
FG23	1,800	600φ	4-D22

柱リスト 1:50 特記なき限り下記とする。
1. 〇 は、寄筋を示す。

階	符 号	C1	C2	C3	C4	C5
3 階	仕口部帯筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100
	断 面					
	B x D	750x750	750x750	750x750	750x750	900x900
	主 筋	16-D25	24-D25	18-D25	22-D25	22-D25
	帯 筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100
2 階	仕口部帯筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100
	断 面					
	B x D	750x750	750x750	750x750	750x750	900x900
	主 筋	18-D25	24-D25	20-D25	24-D25	22-D25
	帯 筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100	□-D13 @100
1 階	仕口部帯筋	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100
	断 面					
	B x D	750x750	750x750	750x750	750x750	900x900
	主 筋	18-D25	24-D25	20-D25	24-D25	22-D25
	帯 筋	□-D13 @100	□-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100	田-D13 @100

片持基礎梁リスト 1:50

符 号	FCG1		
位 置	全断面		
断 面			
	B x D	350x700	
	上端筋	3/1-D25	
	下端筋	3-D25	
	肋 筋	□-D13 @200	
腹 筋	2-D10		

基礎梁天端増打要領図	
断 面	
補強主筋	基礎梁主筋の1サイズ落とし、 φ300以下かつ、3本以上
肋 筋	梁あばら筋と同径・同ピッチ
腹 筋	梁腹筋と同径とし、φ300とする

大梁リスト(1) 1:50

特記なき限り下記とする。

1. 巾止筋は、D10@1,000以内 とする。 2. 大梁主筋はX方向を上側、Y方向を下側に配筋すること。 3. < >内はカットオフ筋のカットオフ長さを示し、<一段筋長さ/二段筋長さ>とする。特記なき位置のカットオフ長さはS-03、S-04による。

階	符 号 位 置	G1			G2			G3			G4			G5			G6			
		外端	中央	内端	2端	中央	3端	内端	中央	外端	外端	中央	内端	2端	中央	3端	内端	中央	外端	
R 階	断 面																			
	B × D	500x700			500x700			550x800			650x700									
	上端筋	4/2-D25	4-D25	4/1-D25	4/1-D25	4-D25	4/3-D25<-/1750>	4/3-D25	4-D25	4/1-D25	5/1-D25	5-D25	5/4-D25							
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25							
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200									
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10										
3 階	断 面																			
	B × D	550x750			550x750			550x750			550x750			550x750			700x750			
	上端筋	5/4-D25<-/2050>	5-D25	5/1-D25	5/1-D25	5-D25	5/3-D25<-/1600>	5/3-D25	5-D25	5/2-D25	5/5-D25<-/2000>	5-D25	5/5-D25<-/2000>	5/5-D25<-/2000>	5-D25	5/1-D25	7/1-D25	7-D25	7/4-D25	
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5/1-D25	5/1-D25	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25	
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10				
2 階	断 面																			
	B × D	550x800			550x800			550x800			550x800			550x800			550x800			
	上端筋	5/4-D25<-/2100>	5-D25	5/1-D25	5/1-D25	5-D25	5/3-D25<-/1650>	5/3-D25	5-D25	5/2-D25	5/5-D25<-/2050>	5-D25	5/5-D25<-/2050>	5/5-D25<-/2050>	5-D25	5/4-D25<-/1800>	5/4-D25	5-D25	5/5-D25	
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5/2-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10				
階	符 号	G7			G8			G9			G10			G11						
	位 置	外端	中央	内端	2端	中央	3端	内端	中央	外端	1端	中央	2端	端部	中央					
R 階	断 面																			
	B × D	500x700			500x700			700x800			500x700			500x1,000						
	上端筋	4/1-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4/4-D25<-/2100>	5/3-D25	5-D25	5/1-D25	4/1-D25	4-D25	4/1-D25	4/1-D25	4-D25	4-D25				
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5/1-D25	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25				
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200						
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			4-D10							
3 階	断 面																			
	B × D	550x750			550x750			550x750			550x750			550x750						
	上端筋	5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/1-D25	5-D25	5/4-D25<-/1900>	5/4-D25	5-D25	5/4-D25	5/2-D25	5-D25	5/1-D25	5/3-D25	5-D25					
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25					
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200						
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10							
2 階	断 面																			
	B × D	550x800			550x800			550x800			550x800			700x985						
	上端筋	5/3-D25	5-D25	5/2-D25	5/2-D25	5-D25	5/4-D25<-/1950>	5/4-D25	5-D25	5/4-D25	5/3-D25	5-D25	5/2-D25	7/3-D25	7-D25					
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	7-D25	7-D25					
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200						
腹 筋	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			4-D10							

一般建築士事務所  株式会社 カトウ建築事務所		埼玉県知事登録 (5) 第8878号 APPR	CHKD	DRAIN	埼玉事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9767	工事名 (仮称) 蕨市立西公民館等複合施設建設工事	S= 1/50 (A1) 1/100 (A3)
一般建築士 No. 164725 北田 英成					東京事務所 東京都中央区湊二丁目2番5号 TEL 03-4262-0278 FAX 03-3206-0288	図 名 大梁リスト(1)	No. S-18

大梁リスト(2) 1:50

特記なき限り下記とする。
1. 巾止筋は、D10@1,000以内 とする。 2. 大梁主筋はX方向を上側、Y方向を下側に配筋すること。 3.<>内はカットオフ筋のカットオフ長さを示し、<一段筋長さ/二段筋長さ>とする。特記なき位置のカットオフ長さはS-03、S-04による。

階	符 号 位 置	G21			G22		G23			G23A			G24		G25			G26		
		外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端	内端	中央	外端	端部	中央	内端	中央	外端	端部	中央	
R 階	断 面																			
	B x D	500x700			500x700		500x1,000			500x800			500x1,000		500x1,100			500x1,000		
	上端筋	4/1-D25	4-D25	4/2-D25<-/~1400>	4/2-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4/1-D25	4-D25	4-D25	4/1-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200		
	腹 筋	2-D10			2-D10		4-D10			□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200		
3 階	断 面																			
	B x D	550x750			550x750		550x750						550x750		550x750			550x750		
	上端筋	5/1-D25	5-D25	5/1-D25	5/1-D25	5-D25	5/2-D25<-/~1250>	5-D25	5/2-D25<-/~1250>				5/2-D25	5-D25	5/2-D25	5-D25	5-D25	5/1-D25	5-D25	
	下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25				5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200						□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200		
	腹 筋	2-D10			2-D10		2-D10						2-D10		2-D10			2-D10		
2 階	断 面																			
	B x D	550x800			550x800		550x800						550x800		550x800			550x985		
	上端筋	5/1-D25	5-D25	5/2-D25<-/~1300>	5/2-D25	5-D25	5/2-D25<-/~1250>	5-D25	5/3-D25<-/~1500>				5/3-D25	5-D25	5/3-D25<-/~1800>	5-D25	5/1-D25	5/2-D25<-/~1650>	5-D25	
	下端筋	5/1-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25				5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	
	肋 筋	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200						□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200		
	腹 筋	2-D10			2-D10		2-D10						2-D10		2-D10			4-D10		

階	符 号 位 置	G27		
		端部	中央	
R 階	断 面			
	B x D	500x1,000		
	上端筋	4-D25	4-D25	
	下端筋	4-D25	4-D25	
	肋 筋	□-D13 @200		
	腹 筋	4-D10		
3 階	断 面			
	B x D	550x750		
	上端筋	5/1-D25	5-D25	
	下端筋	5-D25	5-D25	
	肋 筋	□-D13 @200		
	腹 筋	2-D10		
2 階	断 面			
	B x D	550x985		
	上端筋	5/2-D25	5-D25	
	下端筋	5-D25	5-D25	
	肋 筋	□-D13 @200		
	腹 筋	4-D10		

梁端増打ち配筋要領図

補強主筋	梁主筋の1段落とし(D16以上) @300以下かつ、3本以上
補強肋筋	梁あばら筋肋筋と同径同ピッチ

1. 梁下端増打ちの場合も、同様とする。

2. 打増し部腹筋は梁と同径・同段数とする。

梁側面増打ち配筋要領図

補強主筋	梁主筋の1段落とし@300以下
補強肋筋	梁あばら筋と同径同ピッチ

1. 小梁・壁の鉄筋の定着長さは、梁躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算入しない。

2. 打増し部腹筋は梁と同径・同段数とする。

片持梁リスト 1:50

[illegible]

小梁リスト	1:50
-------	------

符 号	B1	B2			B3		B4		B5			B6		B7		B8	B9		B10
位 置	全断面	外端	中央	内端	端部	中央	端部	中央	左端	中央	右端	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面
断 面																			
B × D	300x600	300x600			300x600		300x600		400x600			400x600		400x600		350x900	650x800		300x500
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3/2-D19	3/2-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19	4/3-D19	4/3-D19	4-D19	4-D19	4-D19	3-D19	5/3-D25	5-D25	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19	3/1-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3/2-D19	4-D19	4-D19	4/2-D19	4-D19	4-D19	4/1-D19	4-D19	4/3-D19	3-D19	5-D25	5-D25	3-D19
肋 筋	□-D10 @200	□-D10 @200			□-D10 @200		□-D10 @200		□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200		□-D10 @200
腹 筋	2-D10	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10	2-D10		—

壁リスト 1:50

符 号	W15	W18	W20		開口補強筋要領図	構造スリット要領図	
断 面						鉛直方向	水平方向
	 150	 180	 200			 25dW25d 25dW25d D10@400 (錆止め塗装) スリット材※ コーキング	 D10@400 (錆止め塗装) スリット材※ コーキング
壁 種	外壁	外壁	外壁			特記事項 1. スリット材は、耐火認定品とする。 2. スリット幅Wは、25mmかつ壁内法高さの1/100+5mmとする。 3. 構造スリットは垂直、水平方向共に完全スリットとする。 4. エクスパンススリット等、既製品を用いること。 5. クラック誘発目地は、構造スリットとは別に意匠と協議の上設けること。 6. 構造スリット位置は、意匠との目地計画を協議の上、袖壁長さ300未満内にて位置を決定すること。 7. 外部に面する構造スリットは、防水仕様とする。 8. スリット壁に直行して取り付く壁には誘発目地を入れること。 9. 水平スリットは、浸水を防ぐために段差付きの納まりとする。	
壁 厚	150	180	200				
縦 筋	D10-@200チドリ	D10-@200ダブル	D13-@200ダブル				
横 筋	D10-@200チドリ	D10-@200ダブル	D13-@200ダブル				
開口 補強筋	縦	2-D10	2-D13	2-D13			
	横	2-D10	2-D13	2-D13			
	斜	2-D10	2-D13	2-D13			

スラブリスト

符 号	板厚	短边方向		长边方向		备 考
		端部	中央	端部	中央	
S1	150	上端筋	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D10-@200
S2	180	上端筋	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D10-@200
		下端筋	D13-@200	D13-@200	D10-@200	D10-@200
CS1	150	上端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
		下端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
CS1A	120	上端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
	150	下端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
CS2	220	上端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
	250	下端筋	D13@200	D13@200	D10@200	D10@200
CS3	220	上端筋	D13@200	D13@200	D10-@200	D10-@200
	250	下端筋	D13@200	D13@200	D10-@200	D10-@200
CS3A	220	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200
	250	下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200
CS4	200	上端筋	D13@100	D13@100	D13@100	D13@100
		下端筋	D13@100	D13@100	D13@100	D13@100
FS1	250	上端筋	D13-@200	D13-@200	D13-@200	D13-@200
		下端筋	D13-@200	D13-@200	D13-@200	D13-@200

スラブ段差要領図 1:30

鉄骨部材リスト

注) 1. 鋼材 : SS400
2. HTB : S10T(締め付けが不可能な部位は F10T)

[illegible]

Technical drawing of the HB1-RC joint showing top and side views with dimensions and material specifications.

Top View Dimensions:

- Overall width: 350
- Overall height: 250
- Inner width: 250
- Inner height: 150
- Side flange width: 50
- Top flange width: 50

Side View Dimensions:

- Overall height: 350
- Inner height: 250
- Top flange thickness: 10
- Bottom flange thickness: 10

Material and Component Specifications:

- B. PL-16x350x250 (SS400)
- A. BOLT: 4-M16 (SS400), L=320mm (ワケ付)
- (ダブルナット締め)
- 無収縮モルタル t=30
- B. PL-16x350x250
- A. BOLT: 4-M16

Caption: HB1-RC部材接合部詳細図 S=1/20

	 一級建築士事務所 株式会社 カトウ建築事務所 埼玉県知事登録 (5) 第8878号 〒340-0278 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9767	APPR	CHKD	DRAWN	埼玉県事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9767 東京事務所 東京都中央区浜二丁目2番5号 TEL 03-6262-8278 FAX 03-3206-0288	工事名 (仮称) 蕨市立西公民館等複合施設建設工事 図 名 片持梁・小梁・壁・スラブ 鉄骨部材リスト	S= 1/50 (A1) 1/100 (A3) DATE 2025.9	No. S-20
	一級建築士 NO.164725 北田 英成							

場所打ち一体式PC工事特記仕様書

1. 総 則

適 用 範 囲	本仕様書は、本工事のうち、場所打ち一体式プレストレストコンクリート（PC）、プレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）造（以下、PC と総称）について適用する。 本仕様書または設計図書に指示されていない事項は下記によること。また、これらに指示されていない事項は、監理者の指示による。 ・建築基準法、同施行令 ・国総研・建築研究所監修 「プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例」（2009年版） ・日本建築学会 「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」（2022年版） ・日本建築学会 「プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説」（2003年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（2022年版）
構 造 方 式	本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下、RC）部材にPC鋼材を組み合わせた場所打ち一体式PC造である。
プレストレス導入方式	プレストレス導入はポストテンション方式であり、その方式については“6. 緊張”の項に示す。
PC工事施工業者	PC工事の施工については、下記専業社のうち、一社の責任施工とする。 オリエンタル白石株式会社、株式会社建研、ビーエス・コンストラクション株式会社 ただし、施工の範囲は、PC鋼材の配置、緊張、グラウトまでの材工一式とする。
施 工 計 画	施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に提出して承認を受ける。

2. 材 料

鉄筋

鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格に適合するものを使用する。

PC鋼材

PC鋼材は、JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線）またはJIS G 3109（PC鋼棒）に適合し、有害な傷の無いものを使用しなければならない。

種 類	PC鋼より線			
記 号	SWPR7BL			
呼 び 名	12-φ12.7			
断 面 積	1.184 mm ²			
引 張 荷 重	2.196 kN			
降 伏 荷 重	1.872 kN			
伸 び	3.5 %以上			

セメント

1）セメントは、JIS R 5210（ポルトランドセメント）に規定する普通ポルトランドセメントを原則とする。

2）その他のセメントを使用する場合は、監理者の指示を受けること。

混和材料

コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監理者の指示を受けること。

3. 型 枠

組立て・取外し	1）コンクリートは、打込みの際にセメントペーストが漏れることのないように留意すること。 2）柱・梁等の型枠については、十分な耐力を持つように留意しなければならない。 3）PC造部分の型枠組立て順序については、PC鋼材の配置に影響されて決定することが多いので注意しなければならない。 4）型枠の締付けは、フォームタイ、及びボルト等により、十分強固にしなければならない。 5）PC定着具が取り付く柱型枠の締め付け金物、バタ角、単管等は、PC鋼材位置を避けて配置する。 6）事前にセパレーターの配置計画を行い、PC鋼材（シース）に当たらないようにする。 7）PC造部分の支保工は、横つなぎ・筋交い等を十分に入れ、横力に対して安全な構造としなければならない。 8）型枠置置期間は、JASS5によるものとする。
---------	---

4. 配筋・配線

鉄 筋	1）鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならない。 2）小梁下端筋やスラブ筋とPC鋼材が交錯する場合は、PC鋼材を優先とする。
PC 鋼 材	1）PC鋼材（シース）は、支持金物等により、正確かつ強固に取り付けること。 2）梁端の定着具は、型枠の内面に正確かつ強固に取り付けること。 3）PC鋼材を露天に放置して、錆等で損傷させてはならない。 4）グラウト用孔、及び排気孔は、十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をする。 5）PC鋼材の加工・組み立てを行なう場合、加熱または溶接を行なってはならない。 6）PC鋼材定着具の露出部分は、プレストレス導入後すみやかにモルタル等で完全に保護しなければならない。 7）PC鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち、監理者の検査を受けなければならない。

5. コンクリート

品

質

1）コンクリートの品質は、下記とする。

使用箇所

R階

設計基準強度

33

N/mm2

プレストレス導入時強度

27

N/mm2

2）コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は下記による。

この供試体はプレストレス導入時強度確認用として、別途採取すること。

ただし、他の供試体で強度を確認できた場合は、試験を省略することができる。

ブレ導入前

予備

合計

現場養生

3本

3本

6本

・プレストレス導入時強度の確認は、現場養生（現場水中養生、または、現場封かん養生）によること。

・プレストレス導入時強度試験は、一般構造図に記載された方法と同じとする。

打

設

1）PC鋼材、鉄筋、型枠、及び定着具が、移動したり損傷したりしないよう注意する。

2）PC鋼材のシース内には、セメントペーストが入ってはならない。

3）シースには、パイプレーターが直接触れないように細心の注意を払うこと。

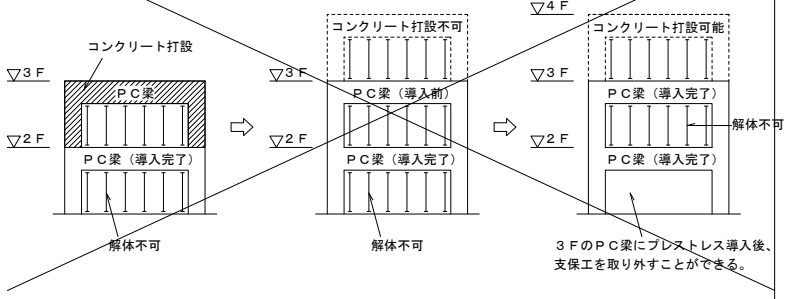
4）PC鋼材定着部の割製補強筋は、コンクリート打設前に完全に配置しなければならない。

5）コンクリートの打込みは、打設場所のできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。

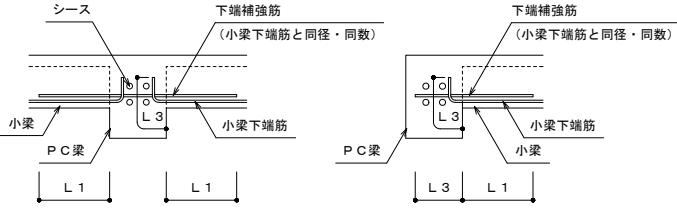
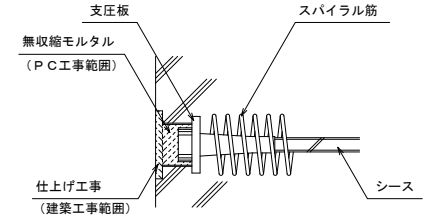
6）原則として、PC造部分におけるコンクリートの打継ぎは、行なってはならない。ただし、やむを得ない場合は打ち継ぎ位置について監理者と協議の上、レイタンス処理など十分に行った後、コンクリート打設を行うこと。

7）PC造部分以外に低強度のコンクリートを打設する際は、そのコンクリートがPC造部分内にこばれないよう留意する。

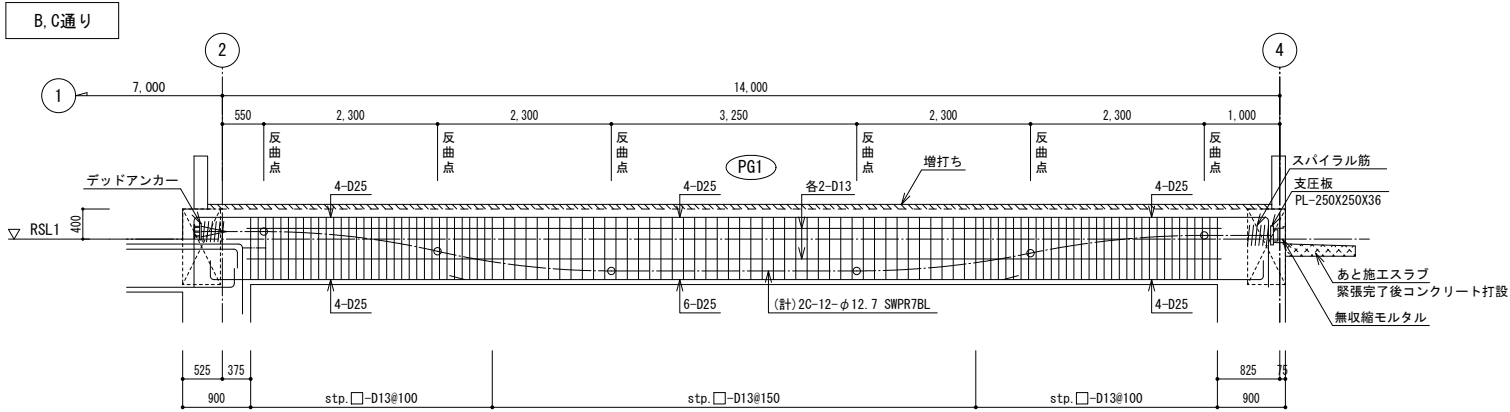
8. 支 保 工

計 画	PC梁は、通常の梁に比べて負担重量が大きいため、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。
取 り 外 し	1）PC梁の支保工取り外しは、監理者の承諾を得て行うが、プレストレスの導入が完了するまでは絶対に取り外さないこと。 2）多層の建築物では、原則として、必ず2層分の支保工を使用し、コンクリート打設荷重をプレストレス導入が完了している2梁で支持すること。（下図参考） 

9. そ の 他

小 梁 配 筋	PC梁に直交する小梁について、下端筋がシースにあたる場合は、原則として下図のように配筋すること。 
スラブ 開口	スラブ補強筋配置位置には、原則としてスラブ開口を設けないこと。
PC梁 貫通孔	1）PC梁に貫通孔を設ける場合には、事前に監理者と協議の上、計画すること。なお、梁貫通孔断面ではPC規準にない検討を行い、貫通孔補強筋を適宜配置すること。 2）貫通孔補強筋に既製品を使用する場合は、第三者機関による技術評価を取得したPC造に適用可能な補強工法を使用すること。 例）ダイヤレンPC工法（コーリョー建版株式会社）
定着端部の処理	PC鋼材定着具の穴埋めについて、工事範囲は下記の通りとする。 

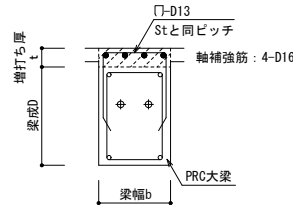
	一級建築士事務所 KATO KATO ARCHITECTS	埼玉県知事登録 (5)第887号	APPR	CHKD	DRWIN	埼玉事務所 さいたま市南区南本町一丁目14番5号 第3小池ビル TEL 048-762-9767 FAX 048-762-9767	工事名 (仮称) 蔵市立西公民館等複合施設建設工事	S= (A1) - (A3)
	株式会社 カトウ建築事務所					東京事務所 東京都中央区浜二丁目2番5号 TEL 03-6262-8278 FAX 03-3206-0288	図 名 PC工事特記仕様書	DATE 2025.9
	一級建築士 No.164725	北田 英成						No. S-21



PRC大梁断面リスト S=1/40

注) ・巾止め筋は、RC大梁に準ずる。
・PC鋼材の水平方向位置は納まりを考慮し変更可能とする。

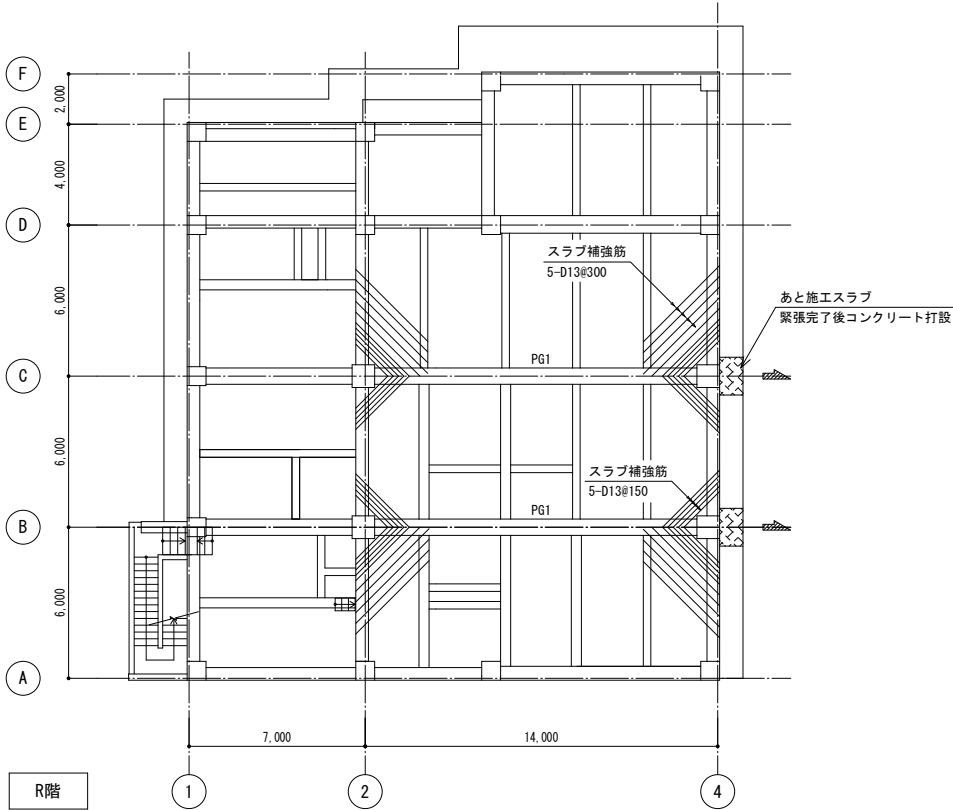
符号	PG1		
位置	2 端	中央	4 端
断面			
PC鋼材	2C-12-12.7φSWPR7BL		
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	6-D25	4-D25
スターラップ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100
腹筋	4-D13		



PRC大梁上端増し配筋要領図

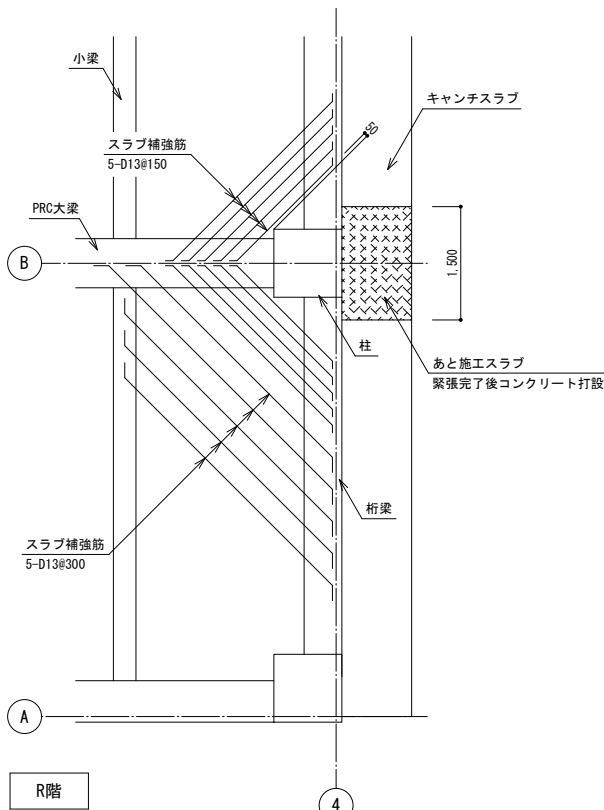
注) ・PRC大梁上端にt=70以上の増しが生じる場合
上記要領で配筋すること。

PRC大梁配線配筋図 S=1/50



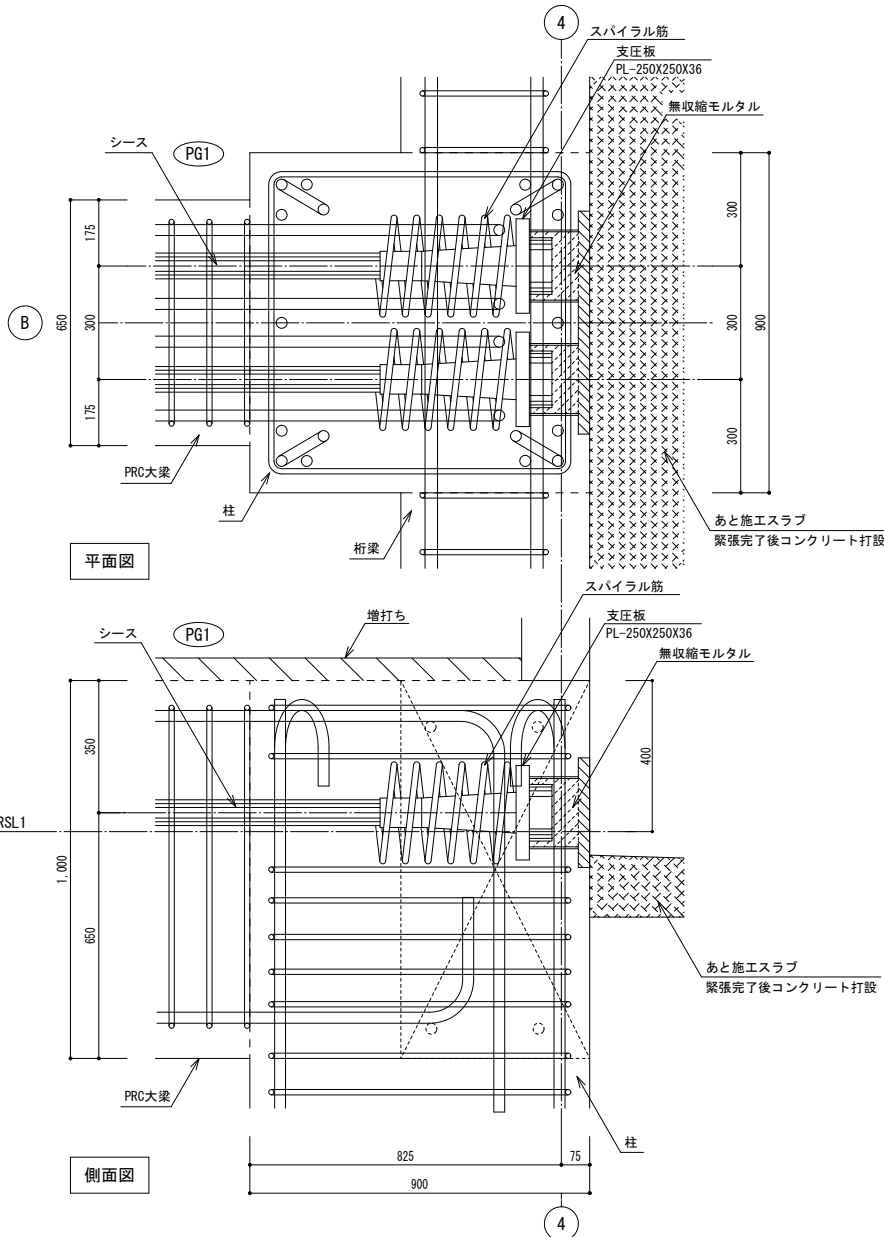
KEY PLAN S=1/150

注) ・ は緊張端を示す。



スラブ補強筋要領図 S=1/50

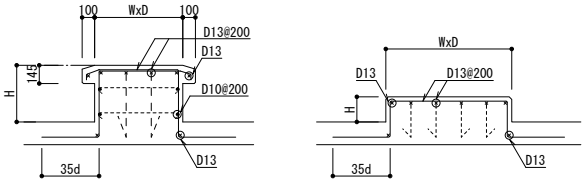
注) ・スラブ補強筋は、スラブ断面の中央に配置すること。
・スラブ補強筋は、L2定着とする。



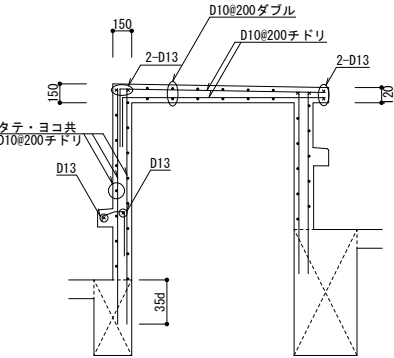
定着具納まり要領図 S=1/10

注) ・配筋は、各リスト参照のこと。
・柱主筋は、定着具及びシースの位置を避けて配筋すること。

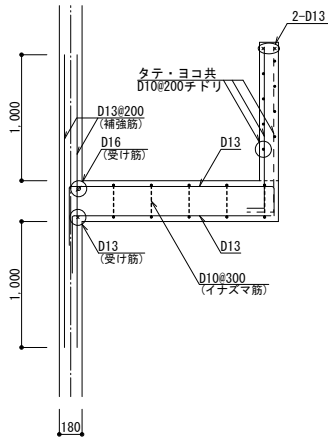
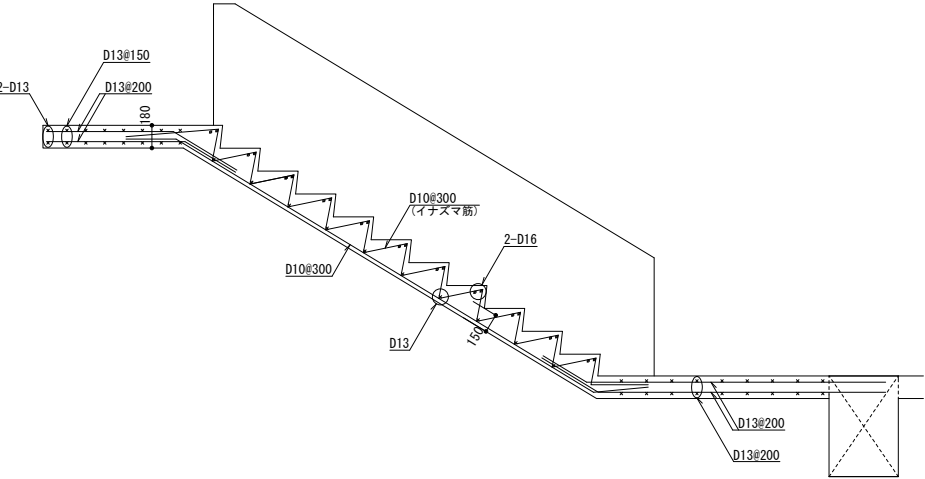
設備基礎配筋図 1:30 ※寸法は、意匠図による。



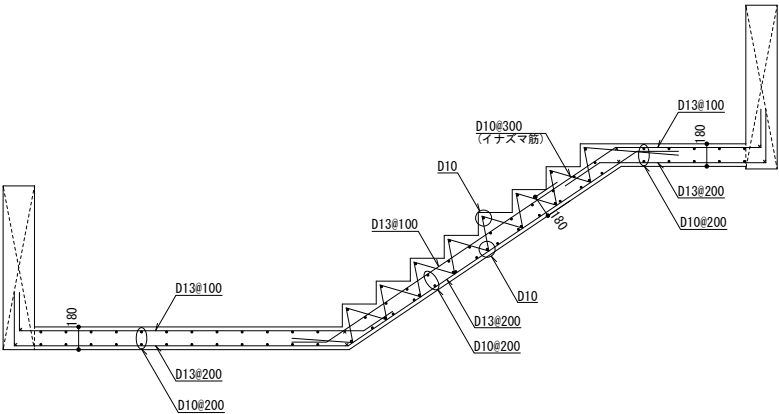
ハト小屋配筋図 1:30 ※寸法は、意匠図による。



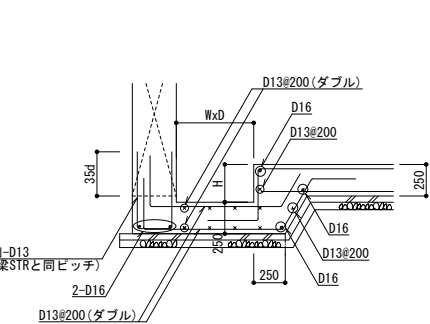
内部階段配筋図 1:30 ※寸法は、意匠図による。



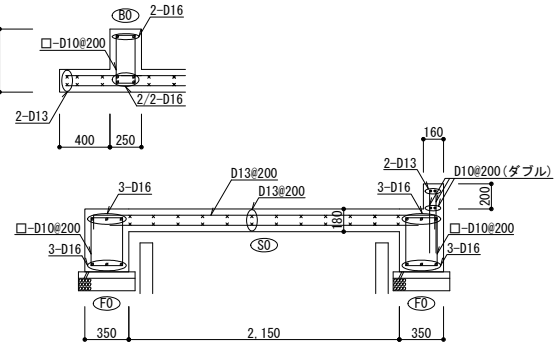
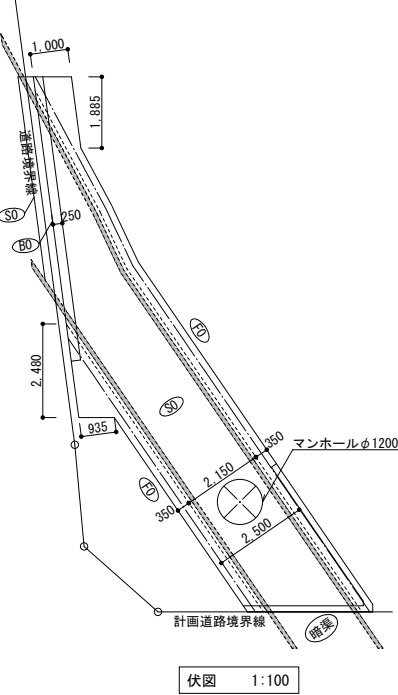
外部階段配筋図 1:30 ※寸法は、意匠図による。



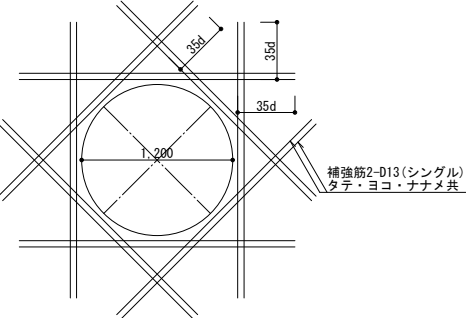
釜場配筋図 1:30 ※寸法は、意匠図による。



暗渠ふさぎスラブ配筋図 1:30・1:100 ※地盤下は地盤改良を行い、長期地耐力:50kN/m²以上を確保すること。



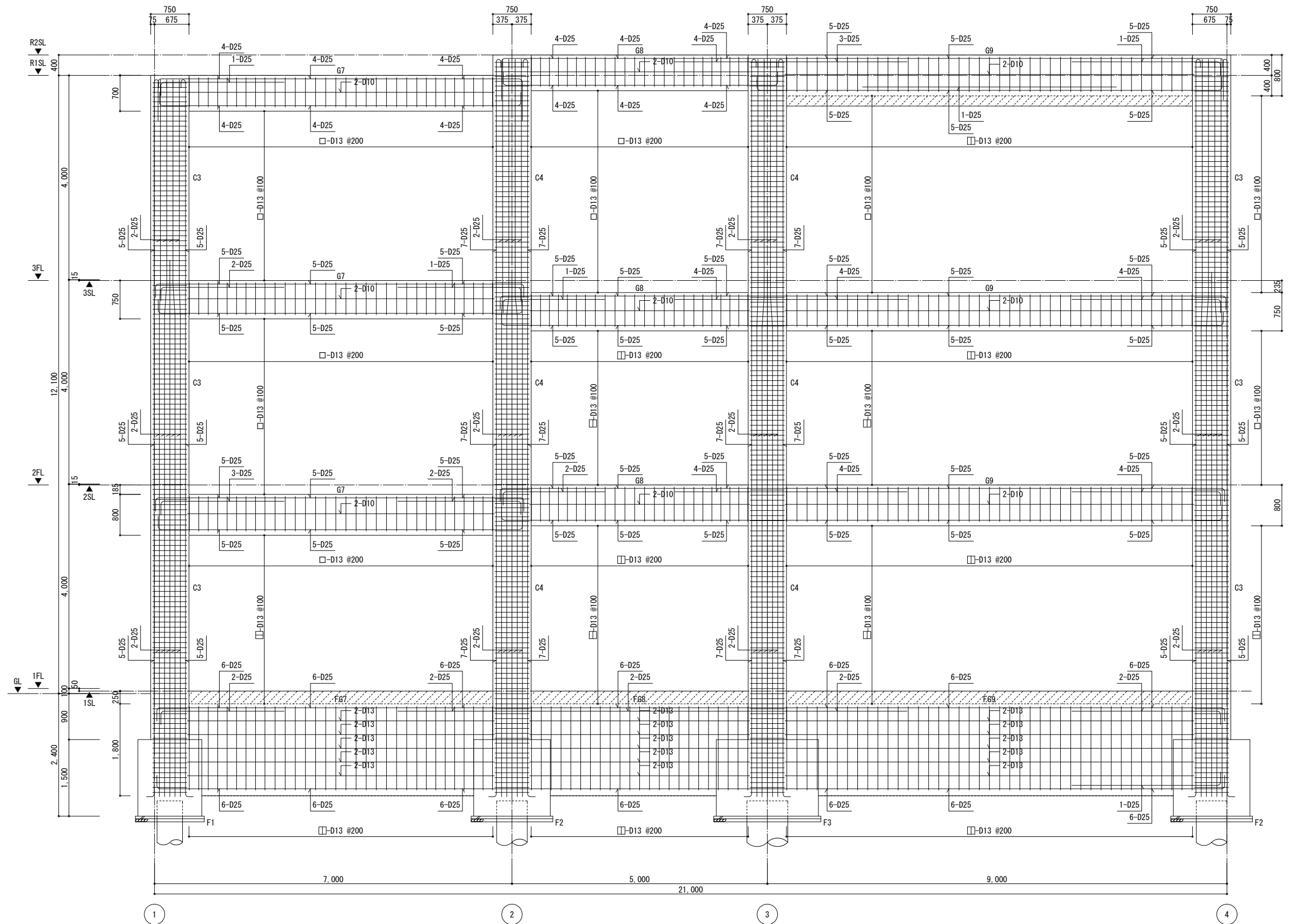
配筋図 1:30



マンホール開口補強要領

壁増打部配筋図 1:30





D 通り架構詳細図 1:40